

公共交通の利用促進に向けた地域のサポート事例集

平成 22 年 3 月

国 土 交 通 省
北 陸 信 越 運 輸 局

公共交通の利用促進に向けた地域のサポート事例集

～目 次～

1 . 本資料の目的	1
1-1 本資料の目的	1
1-2 公共交通利用促進のための民間サポートの考え方	1
1-3 事例収集の手順	5
2 . 公共交通民間サポートの実施状況	6
2-1 アンケート調査結果	6
(1) アンケート調査の方法	6
(2) アンケート結果	7
2-2 サポート事例の概要	11
(1) サポート事例の収集件数	11
(2) サポート事例の概要	12
3 . 主なサポート事例の紹介	13
3-1 主なサポート事例の概要	13
3-2 主なサポート事例の詳細	15
4 . 公共交通利用促進のための民間サポートのポイント	36
5 . (参考)他地域における民間サポート事例	40
5-1 他地域における民間サポート事例一覧	40
5-2 民間サポートの事例	42
6 . (参考)管内民間サポート事例データ	48
6-1 実施されている民間サポート事例(1次アンケート結果)	49
6-2 民間サポート実施の経緯・効果(2次アンケート結果)	64

はじめに

地域公共交通は地域における社会経済活動の基盤であり、住民の移動手段の確保、地域活性化、環境問題等への的確に対応するためにも、その活性化・再生は喫緊の課題となっております。

こうした状況を踏まえ、平成19年10月には「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が施行され、平成20年度予算から、同法律を活用して鉄道、コミュニティバス・乗合タクシー、旅客船等の多様な事業に創意工夫をもって取り組む協議会に対し、パッケージで一括支援する新たな支援制度「地域公共交通活性化・再生総合事業」が創設され、今年度においても各地域で地域公共交通活性化・再生に向けた検討が進められております。

しかし一方では、各地域において既存の交通体系の見直しや交通空白地帯に対応した新しい交通システム導入の検討等を進めていく中であって、公共交通を取り巻く情勢は非情に厳しくなっている現状があります。特に、財政面での自治体の負担は大きく、地元民間からの賛助金等の協力依頼を働きかけておりますが、これも最近の経済情勢の悪化から、賛助金としての支援をためらうところも多く見受けられる状況となっております。

このような中、各地域では、賛助金だけではない他の方法、例えば直接的な経済負担を伴わない、あるいは低廉な負担で地元の民間等が公共交通利用促進のためのサポートを行っている事例も見られております。

本事例集では、このような各地の事例を他の地域においても参考にして、公共交通の利用促進に向けてのサポート体制を構築したり、新たなアイデアの発案に繋がるよう、各地でのサポート実施事例を収集し、各地域の公共交通担当者が活用できる事例集としてとりまとめたものです。

今後において、さらなる公共交通の活性化・再生を効果的に進めるためにも、本書に掲載のサポート事例を、地域の状況に応じて役立てて頂けると幸いです。

1. 本資料の目的

1-1 本資料の目的

本資料は、地域の公共交通について、賛助金だけでなく、他の方法、特に直接的な経済的負担を伴わない、あるいは低廉な負担で地元民間等が利用促進のためのサポートを行っている事例を収集したものです。

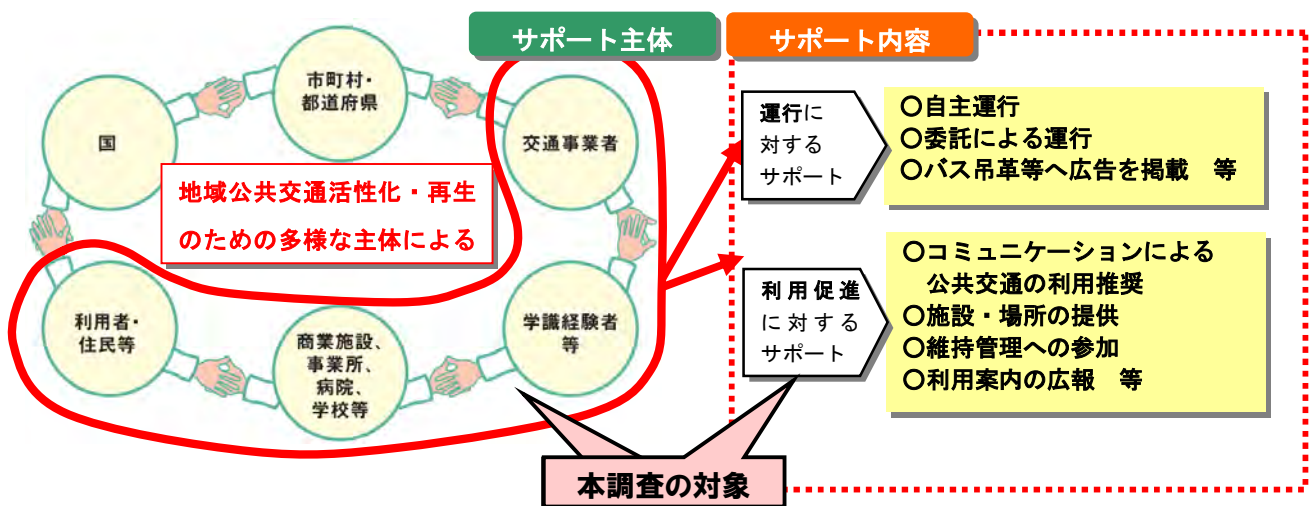
本資料をご参照頂くことで、公共交通の利用促進に向けてのサポート体制が構築され、さらに各地域の新しいアイデアが発案できることを目的とします。

1-2 公共交通利用促進のための民間サポートの考え方

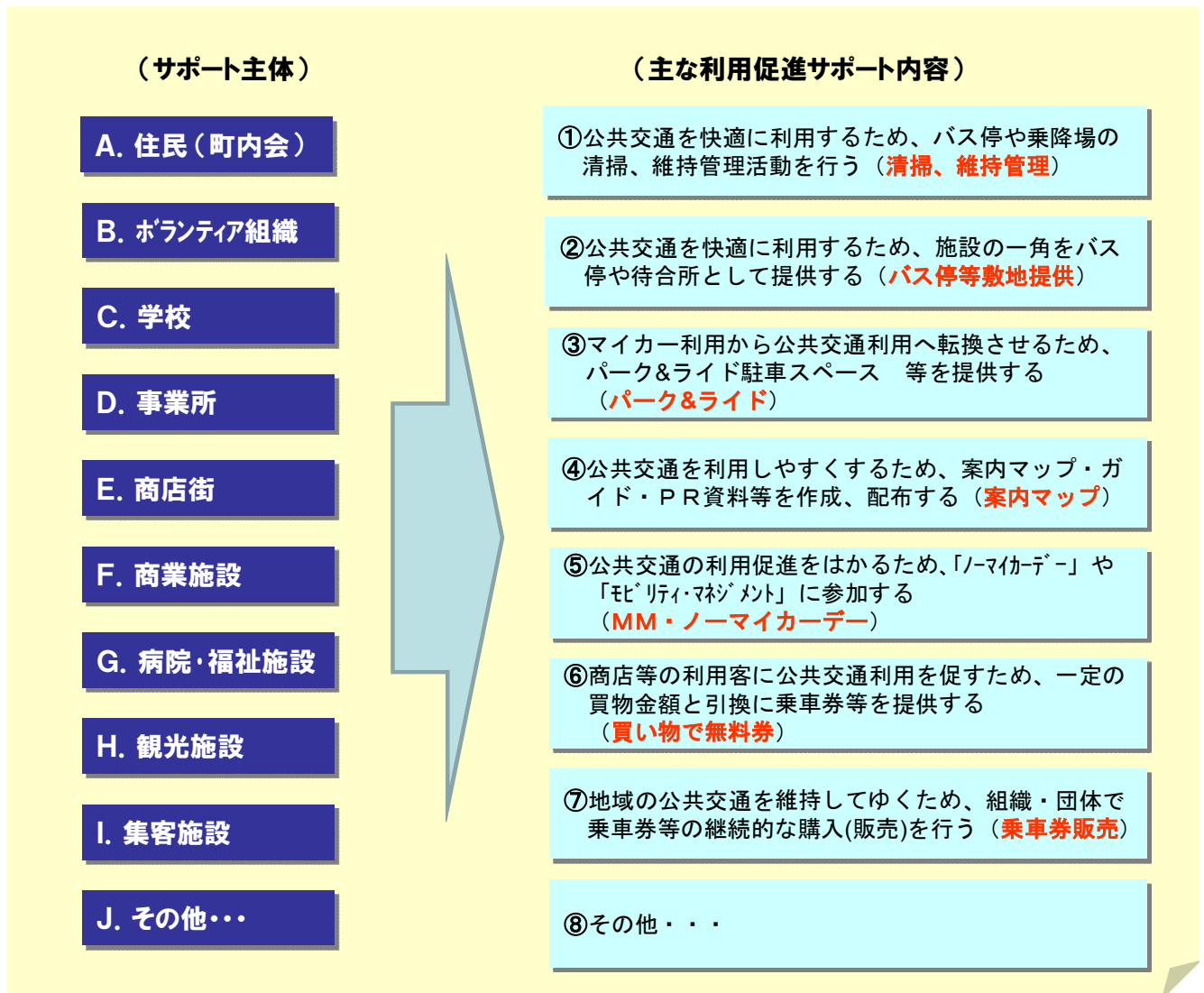
本調査は、各地域の民間による公共交通サポートについて、運行に対する直接的な財政支援ではなく、経済的負担を伴わない、あるいは低廉な負担により、利用促進のサポートを行っている事例を収集することを目的とします。

ここで扱う、『民間サポート事例』とは以下のものを対象とします。

■調査対象とする民間サポートの考え方



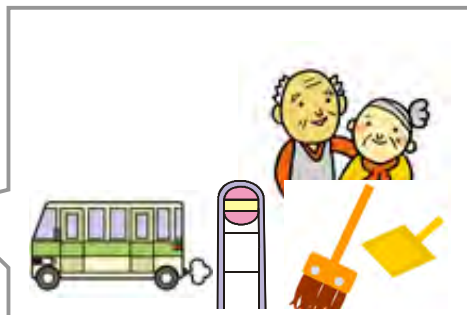
■民間サポートの主体と内容の関係



■サポート事例分類のイメージ

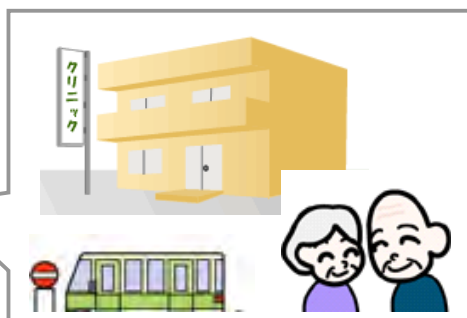
○事例 1 : 清掃維持管理

A市の郊外団地では、団地内を経由運行している路線バスを快適に利用するため、自治会等が、バス停や乗降所付近の清掃、植栽管理を定期的に行っています



○事例 2 : バス停等敷地提供

B村の中心街では、冬場のバス待ちを快適に過ごすため、冬期間、バス停最寄りの商店や診療所等が、施設の一角を待合所として提供しています



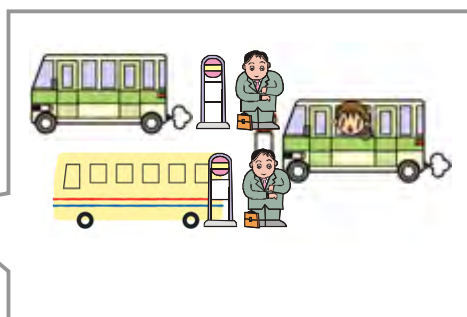
○事例 3 : パーク&ライド

C市の郊外商業施設では、マイカー利用からバス利用への転換を促すため、パーク&ライド用の駐車スペースを提供しています。



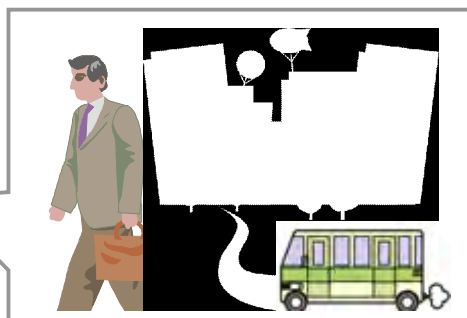
○事例 4 : 案内マップ

D市の観光地では、公共交通による観光周遊を促進させるため、旅館組合等が、公共交通マップ・バス乗り場案内等を作成し、駅や施設等で配布しています



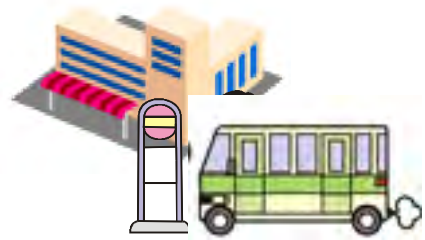
○事例 5 : MM・ノーマイカーデー

E市の企業や大学では、バス交通の利用促進をはかるため、「ノーマイカーデー」や「モビリティマネジメント」に繋がる取り組みを実施しています



○事例6：買い物で無料券

市の中心街では、休日、買い物客へ電車・バス利用を促すため、商店街組合等が、2千円分のレシートと引換に1回分のバス乗車券を提供しています



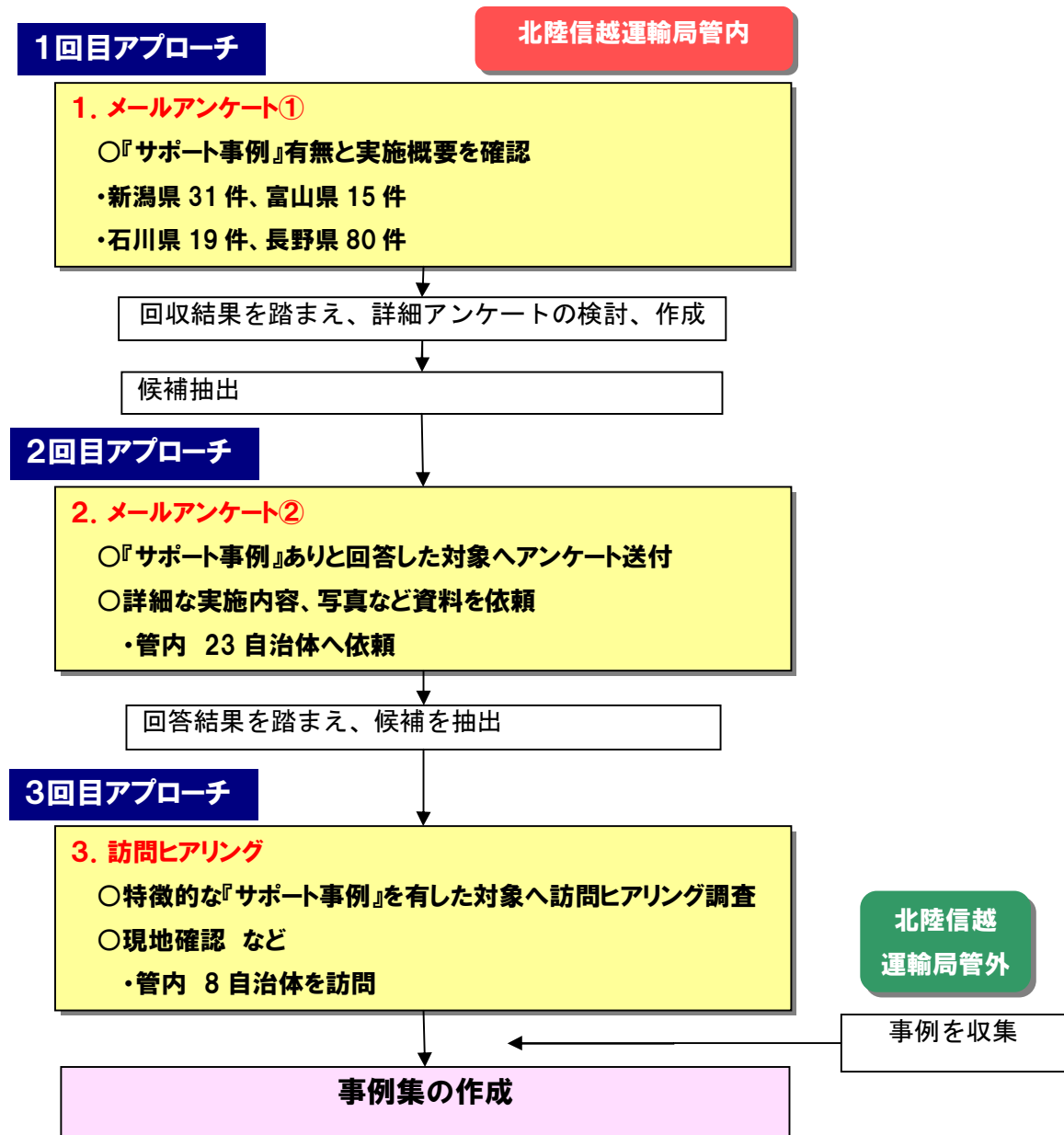
○事例7：乗車券販売

E町の住宅地では、地域の公共交通を維持してゆくため、自治会等が、割引率の高い乗車券をまとめて購入、販売を継続的行っています



1-3 事例収集の手順

事例収集は、北陸信越運輸局管内自治体へのアンケート・ヒアリングを通じ、実施しました。



2. 公共交通民間サポートの実施状況

2-1 アンケート調査結果

まず、北陸信越運輸局管内の自治体へのアンケート調査により、“公共交通利用促進に向けたサポート事例”があるか、ある場合、どのような方法で取り組んでいるかを把握しました。

(1) アンケート調査の方法

アンケートは北陸信越運輸局管内全市町村（145市町村）を対象に実施しました。
（実施方法は、電子メール・郵送・FAXにて調査票を送付、返信を頂きました）

【回答用紙】公共交通利用促進のための民間サポート事例アンケート

1. 代表回答者名をお教えください。

※今後、本件についてのお問い合わせをさせて頂く際の窓口、ご担当者名をお願いいたします。

なお、複数の部署からの回答を頂く場合、窓口となる担当課、担当者名をご記入下さい

市区町村名	〔新潟・長野・富山・石川〕県（ ）市区町村			
部署・連絡先 （代表窓口）	部署名			
	回答者	役職	氏名	
	連絡先	TEL	FAX	
	E-MAIL	@		

2. 別途送付した『説明資料』をご覧ください。貴市区町村で現在行われている公共交通利用促進のための「民間サポート事例」について、ご存知の内容をどんなことでも良いので、できるだけ多くお教えください。

回答は、下記のお願および記入例を確認頂き、ご記入ください。

ご記入のお願い1

回答欄「(1)サポート主体」は、該当するサポート実施主体を、以下の記号A～Jから選んでご記入ください。

A. 住民（町内会）	D. 事業所	G. 病院・福祉施設	J. その他 （主体者をご記入ください）
B. ボランティア組織	E. 商店街	H. 観光施設	
C. 学校	F. 商業施設	I. 集客施設	

ご記入のお願い2

回答欄「(2)内容」は、該当するサポート内容を、以下の番号①～⑧から選んでご記入ください。

①公共交通を快適に利用するため、 バス停や乗降場の清掃、維持管理活動 を行う	②公共交通の利用促進をはかるため、「 ハマチデー 」や「 ICカードサポート 」に参加する
③公共交通を快適に利用するため、施設の一部を バス停や待合所として提供 する	④商店等の利用客に公共交通利用を促すため、 一定の買物金額と引換に乗車券等 を提供する
⑤マイカー利用から公共交通利用へ転換させるため、 パーク&ライド駐車スペース等 を提供する	⑥地域の公共交通を維持してゆくと、 組織・団体で乗車券等の継続的な購入（販売） を行う
⑧公共交通を利用しやすくなるため、 案内マップ・ガイド・PR資料等を作成、配布 する	⑦その他・・・

記入例

(1)サポート主体	(2)内容	(3)サポート公共交通機関	(4)具体的なサポート内容 （どこで・だれが・いつから・どんなサポートを簡潔に記入）								
【記入例1】 A	①	路線バス（××交通）	<table> <tr> <td>場 所</td> <td>○郊外の××住宅団地</td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td>○××住宅団地町内会</td> </tr> <tr> <td>時 期</td> <td>○平成19年4月よりスタート</td> </tr> <tr> <td>サポ-ト内容</td> <td>○団地前バス停において、住民による月1回の清掃、積雪時の雪かきが実施されている。</td> </tr> </table>	場 所	○郊外の××住宅団地	実施者	○××住宅団地町内会	時 期	○平成19年4月よりスタート	サポ-ト内容	○団地前バス停において、住民による月1回の清掃、積雪時の雪かきが実施されている。
場 所	○郊外の××住宅団地										
実施者	○××住宅団地町内会										
時 期	○平成19年4月よりスタート										
サポ-ト内容	○団地前バス停において、住民による月1回の清掃、積雪時の雪かきが実施されている。										
【記入例2】 E	⑥	鉄道バス共通（××交通）	<table> <tr> <td>場 所</td> <td>○都心部の△△商店街</td> </tr> <tr> <td>実施者</td> <td>○△△商店街振興組合</td> </tr> <tr> <td>時 期</td> <td>○平成21年7月より導入</td> </tr> <tr> <td>サポ-ト内容</td> <td>○従前、買物2千円以上でバス1回乗車券を提供していた。今年からICカード導入により、鉄道・バス共通100円サポ-トを提供しており、好評、利用者を伸ばしている。</td> </tr> </table>	場 所	○都心部の△△商店街	実施者	○△△商店街振興組合	時 期	○平成21年7月より導入	サポ-ト内容	○従前、買物2千円以上でバス1回乗車券を提供していた。今年からICカード導入により、鉄道・バス共通100円サポ-トを提供しており、好評、利用者を伸ばしている。
場 所	○都心部の△△商店街										
実施者	○△△商店街振興組合										
時 期	○平成21年7月より導入										
サポ-ト内容	○従前、買物2千円以上でバス1回乗車券を提供していた。今年からICカード導入により、鉄道・バス共通100円サポ-トを提供しており、好評、利用者を伸ばしている。										

（1／3ページ）

（2／3ページ）

そのままメールで送付ください。

※なお、ご回答頂いた本アンケート調査の内容に基づき、調査実施機関より、電話およびメール等でご確認させて頂く場合がございます。お手数ですが、何卒よろしくお願い致します。

（3／3ページ）

▲アンケート調査票

- 6 -

(2) アンケート結果

アンケート結果は、以下のとおりです。

- 公共交通利用促進に向けた民間サポート事例について、約 34%の市町村（49 市町村）より、ご報告を頂きました。（図 2-1、図 2-2、図 2-3）
- サポート内容では、「清掃・維持管理」が最も多く、次いで「バス停の敷地提供」が多くなっていました（図 2-4）
- サポート主体では、「住民（町内会）」が最も多くなっていました。（図 2-5）

(1) 公共交通利用促進のためのサポート事例の有無について

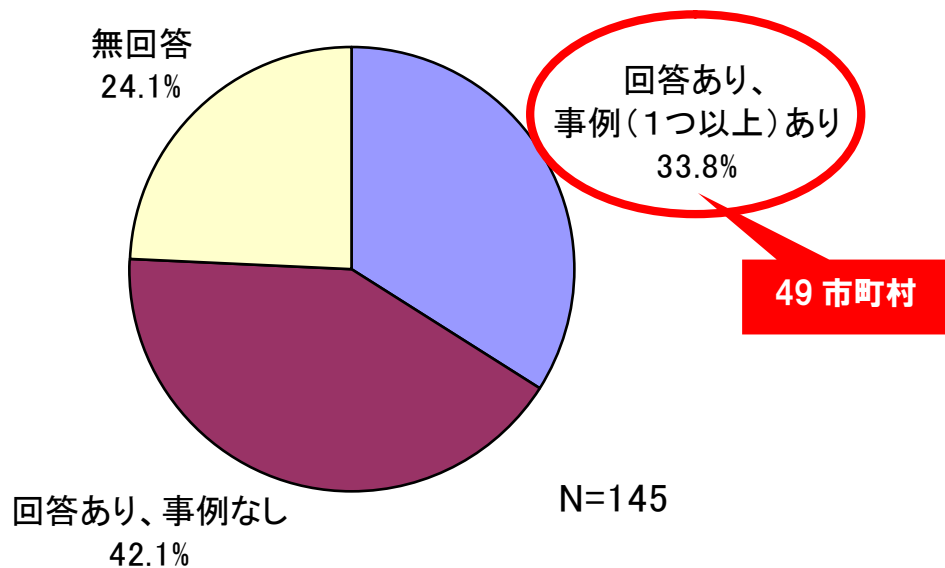


図 2-1 サポートの有無について



図 2-2 アンケート回答市町村（49市町村）

(2) 公共交通利用促進のための民間サポート事例の有無（県別）について

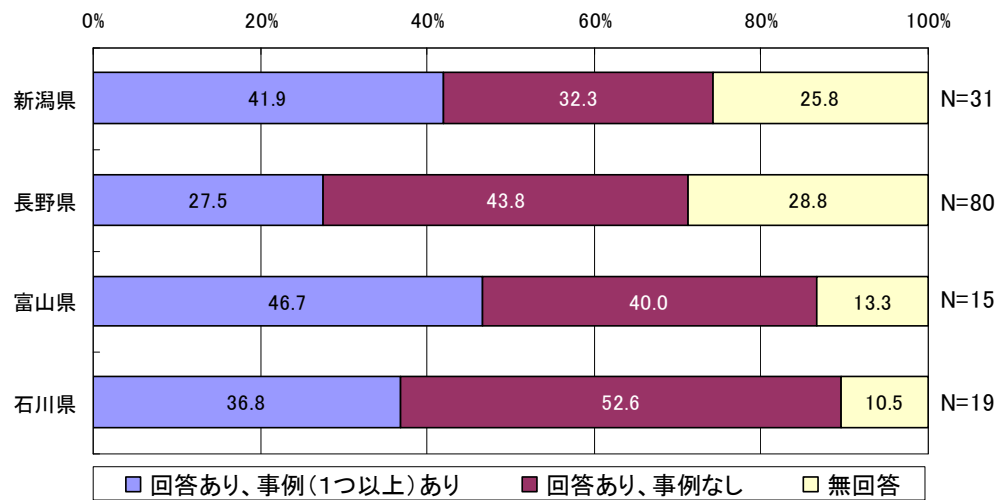


図 2-3 サポートの有無について

(3) 公共交通利用促進のための民間サポート事例の内容について

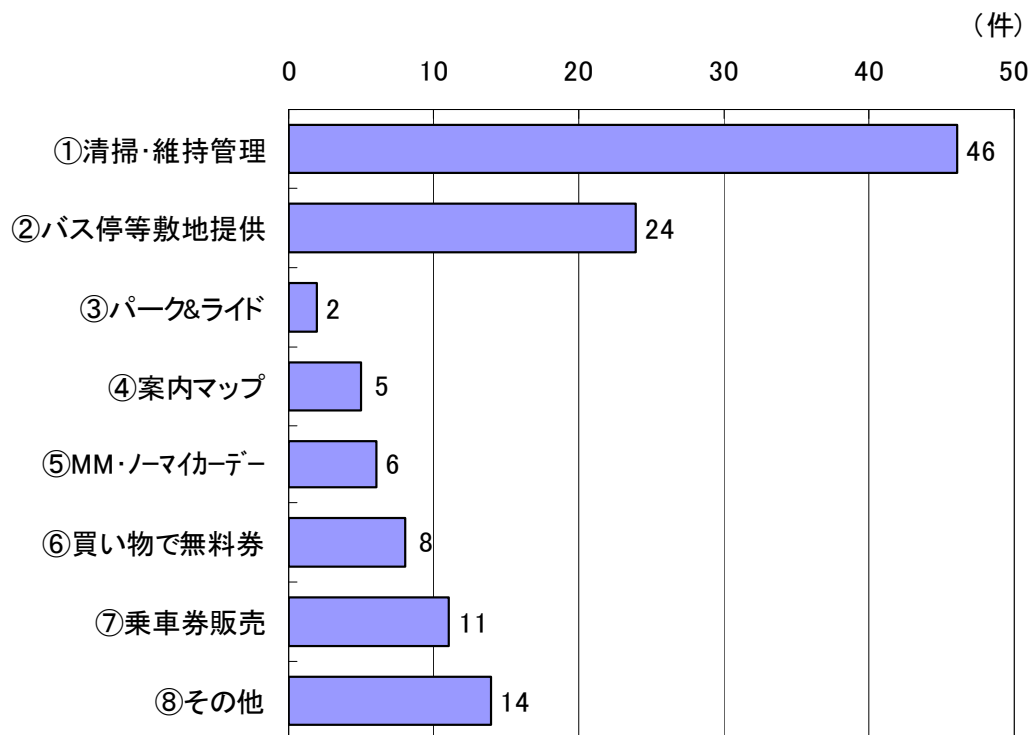


図 2-4 サポートの内容について

(4) 公共交通利用促進のための民間サポート事例の主体について

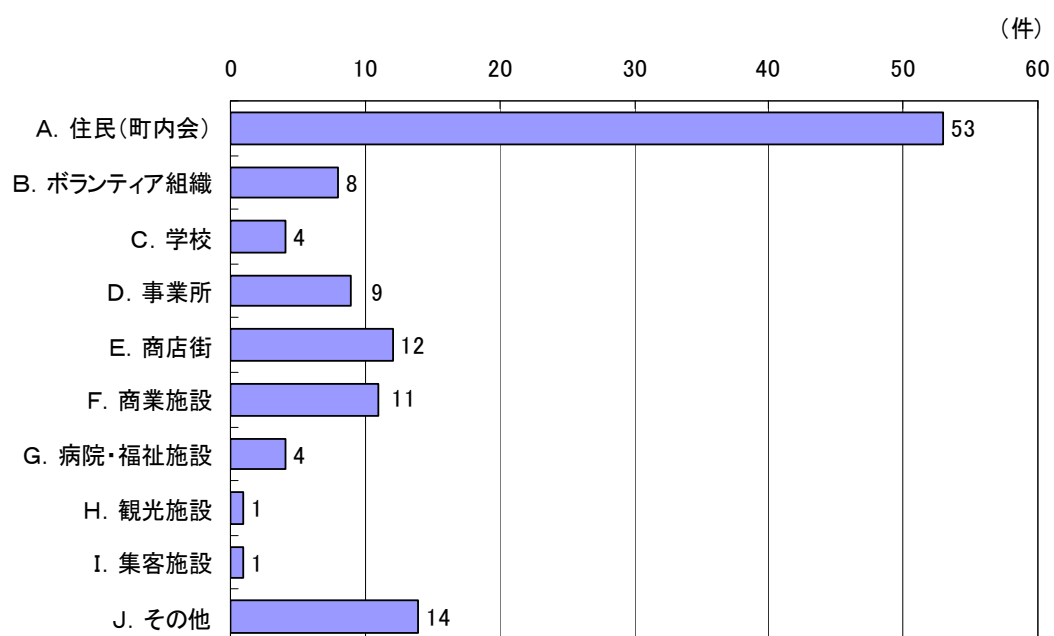


図 2-5 サポートの主体について

2-2 サポート事例の概要

(1) サポート事例の収集件数

アンケートで収集された個々のサポート事例について、「サポート内容」と「取り組み主体」から分類すると、クロス項目別のサポート事例の件数は以下のようになっています。

件数が最も多いのは、「A住民による、①清掃、維持管理活動」であり、次いで「A住民による、②バス停等敷地提供」が多くなっています。

表 2-1 サポート事例の分類別件数

サポート事例分類		取り組み主体									
事例 No	サポート内容	A. 住民	B. ボラン ティア	C. 学校	D. 事業所	E. 商店街	F. 商業 施設	G. 病院等	H. 観光 施設	I. 集客 施設	J. その他
①	清掃、維持管理	36	5	3	1	1					3
②	バス停等敷地提供	10			3	1	5	4			2
③	パーク&ライド	1					1				
④	案内マップ	1	2				1				1
⑤	MM・ノーマイカー デー	1		1	2						2
⑥	買い物で無料券					6	3			1	
⑦	乗車券販売	7	1		1	2			1		2
⑧	その他	3			1	1	2			1	7

* 複数の主体が関わる事例は、それぞれの主体毎にカウントしているため、全体の総数は合わない。

(2) サポート事例の概要

アンケートで収集された個々のサポート事例概要については、6 章（参考）管内民間サポート事例データ（アンケート事例について市町村別、取り組み内容別に整理し紹介）を参照下さい。

3. 主なサポート事例の紹介

3-1 主なサポート事例の概要

収集した民間サポート事例の中から、「先駆的に取組まれていること」、「公共交通利用促進に寄与していること」等を含めた次に示す基準で、各分類についての「主なサポート事例」を選定した。

- ・先駆的に取り組んでいる事例を選定
- ・公共交通の利用促進に寄与している事例を選定
- ・各事例分類について最低1事例を選定
- ・他地域で実施する場合に、比較的容易に取り組む可能な事例を選定

その結果、「主なサポート事例」として、10 事例を選定した。

さらに、この 10 事例については、担当市町村、関連する団体・組織・学校等を対象としたヒアリング調査を実施し、ヒアリング結果を踏まえて主なサポート事例の詳細について取りまとめた。

表 3-1 主なサポート事例の概要

サポート事例分類		サポート 実施内容等	サポート 実施主体	交通機関	実施場所
事例 NO	サポート内容				
①②	清掃、維持管理	待合所の整備とベンチの制作	地元学校（飯田高校）、住民組織（珠洲ロードバイククラブ）	路線バス	石川県 珠洲市
②	バス停等敷地提供	商店や医院におけるバス停の設置	店舗（ドラッグストア） 医院（医院）	コミュニティーバス	長野県 立科町
③	パーク＆ライド	パーク＆ライド駐車場の提供	住民組織（電車存続既成同盟会）	鉄道	長野県 上田市
④	案内マップ	外国人向け観光マップ	通訳案内士（観光案内職）＊H13.4時点	路線バス	新潟県 佐渡市
⑤	MM・ノーマイカーデー	大学と提携したバスの運行	学校（東京理科大学）	路線バス	長野県 茅野市
⑥	買い物で無料券	共通乗車券の販売と買い物客への進呈	地元商店街他（高岡市中心商店街）	路面電車	富山県 高岡市
		大規模商業施設と行政の Win-Win 関係によるバス運行	大規模商業施設（イオン新発田SC）	市街地循環バス	新潟県 新発田市

⑦	乗車券販売	住民賛助会員制による乗車券の販売促進	住民組織 (NPO 法人七葉)	コミュニ ティーバ ス	新潟県 新発田市
		住民での乗車券販売促進、商店街のスペースを待合所として提供	住民組織 (運行協議会)	乗合 タクシー	石川 加賀市
⑨	その他	レンタサイクルの実施	住民組織(電車存続 既成同盟会)	鉄道	長野県 上田市

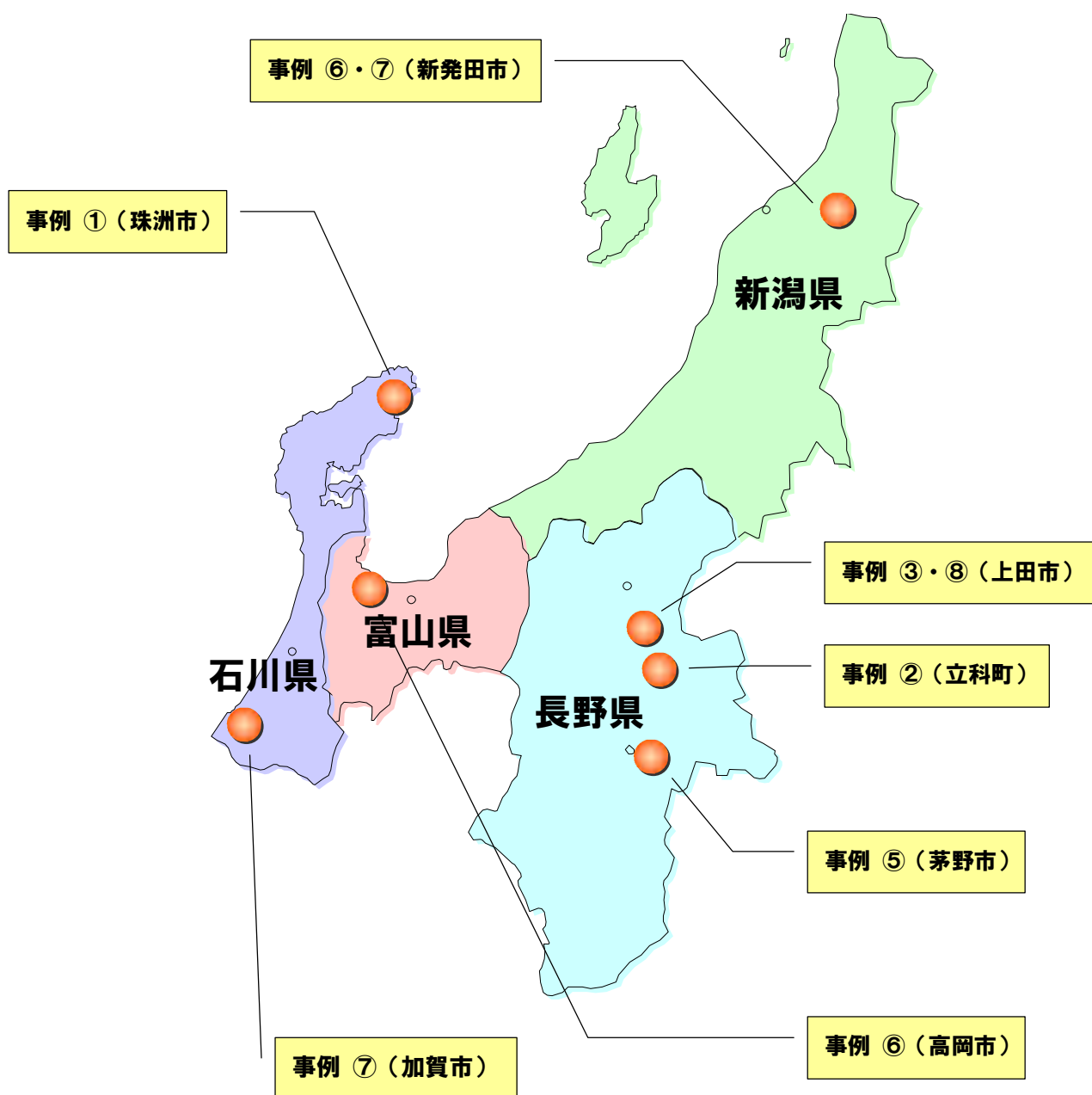
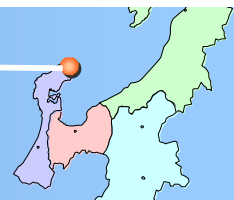


図 3-1 主なサポート事例実施市町村の位置

3-2 主なサポート事例の詳細

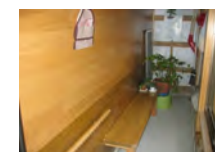
主なサポート事例（10 事例）のについて、ヒアリング結果を含めて取り組み内容の詳細を整理し次ページ以降に紹介します。

石川県 珠洲市（すずし）



□ポイント

- 地域の様々な団体が自ら考えた事業計画を持って「活動団体」に応募し、自らの手で支援事業を実施（バス待合所の整備、バス停清掃）。
- 支援事業実施後の市民アンケートでは、62.7%の市民が同事業を「必要な取り組み」と評価。



▲古い倉庫を待合所に改修



▲地区バス停に待合所を新設



▲バス停の清掃活動



▲バス停ベンチの製作・設置



□取り組みの概要

だれがサポート？：珠洲市内の組織、団体、学校

どの公共交通に？：地区を運行する路線バス

どんなサポート？：バス停待合所の整備、バス停ベンチの製作・設置、バス停の清掃

どういう方法で？：珠洲市地域公共交通活性化協議会が「バス・ボランティア・サポート団体の募集」

を行い、応募した団体と協議会とが「バスを守り育てる」協定を結んだ上で、各団体が提案したサポート活動を実施した。これら活動に対し、協議会は、清掃道具や除雪スコップの貸与、待合所整備の資材購入費支給等の支援を行った。

□サポートに至った経緯

- ・平成20年度地方の元気再生事業の提案申請がきっかけとなった（平成20年5月）。
- ・同年8月には、珠洲市地方公共交通活性化協議会で事業内容を承認した。
- ・同年10月に、市広報誌によりサポート団体を募集した。
- ・同年12月に、協議会と応募した団体との間で協定書を締結した。

【初年度（平成20年度）は5団体と協定書を締結】

- ・一輪会（折戸地区）：地区バス停横の古い倉庫を待合所に改修
- ・柏原地区：地区内バス停の清掃・除雪活動
- ・石川県立飯田高等学校：美化委員による学

校近くバス停での清掃・除雪活動

- ・ 珠洲ローターアクトクラブ：バス停ベンチの製作・設置活動
- ・ 上戸町区長会：地区バス停への待合所の新設・整備

- ・ 同年12月～平成21年3月において、各団体でサポート活動を実施した。
- ・ 平成21年4月には、これを受けて、市独自の「珠洲市バス・ボランティア・サポート活動費補助金交付要綱」を制定するに至った。
- ・ このバス・ボランティア・サポート活動については、平成21年度以降も継続実施されている。

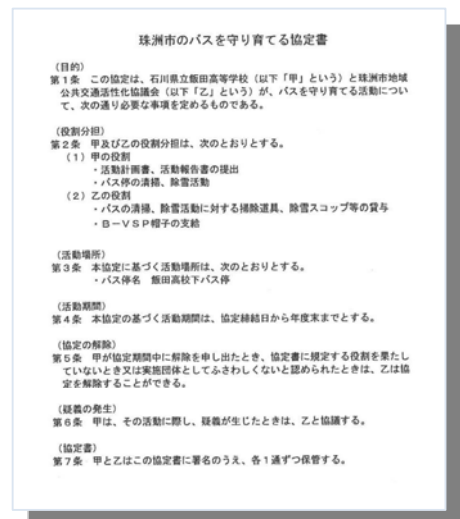
※市民アンケートによると、この支援事業を市民は「必要なりとくみだと思う」と評価しており、その理由としては「ボランティア活動が地域との交流深めと思うから」、「バスが利用しやすいと思うから」などが多くなっている。



▲団体募集のチラシ



▲協定書調印式の様子を伝える新聞記事



▲協定書

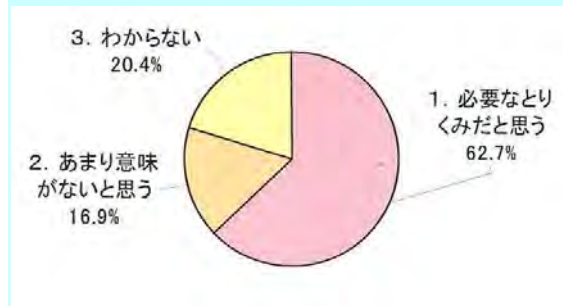
□サポート事業概況とアンケート結果

- 事業主体 地元組織・団体・学校
- 実施主体 各サポート団体
- 事業補助 珠洲市（材料費程度の金銭補助）
- 事業内容

平成20年度 5件（待合所整備：2件、バス停の清掃：2件
ベンチ設置：1件）

平成21年度 1件（待合所補修）

※飯田高校では、支援事業が終わった後も、バス停の清掃・除雪活動を継続し実施している。



▲市民アンケート結果
(問：バス・ボランティア・サポート試行実験についてどのように思いますか)

サポート実施の秘訣（珠洲市へのアンケート結果より）

- ・ 市の広報誌にて活動団体を募集し、参加の申し出があった団体と協定を結んだ上での事業実施であり、団体自らが考え、行動を起こしている点がポイント。
- ・ 行政の押し付けでは団体は育たない。団体自らの発想で地域のバスを守り育てるという意識の醸成ができることが継続の秘訣。

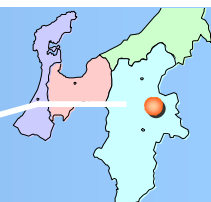
お問い合わせ先

珠洲市企画財政課

TEL:0768-82-2222

URL: <http://www.city.suzu.ishikawa.jp/>

長野県 立科町（たてしなまち）



□ポイント

- 運行前の地元説明会の中での高齢者の意見・要望を尊重し、事務局から地元ショッピングセンターや医院にお願いし、各施設の正面入口にバス停が設置されることになった。
- これは「自分で買物がしたい」「一人で通院できる」という高齢者のニーズに応えるところとなった。



▲商業施設正面入口に設置されたバス停

▲医院の正面玄関前に設置されたバス停

□取り組みの概要

だれがサポート？：地元商業施設、医院

どの公共交通に？：路線バス（たてしなスマイル交通：東回り線、西回り線）

どんなサポート？：町内の商業施設（スーパー）、医院の正面入口へのバス停設置

どういう方法で？：商業施設（スーパー、2企業）の正面入口や医院（2箇所）の正面玄関前へのバスの乗り入れ及びバス停設置。

具体的には、バス運行前の地元説明会の中での住民の方や高齢者の方からの意見・要望を受けて、各施設へ協力を依頼し、承諾を得た上で設置に至った。

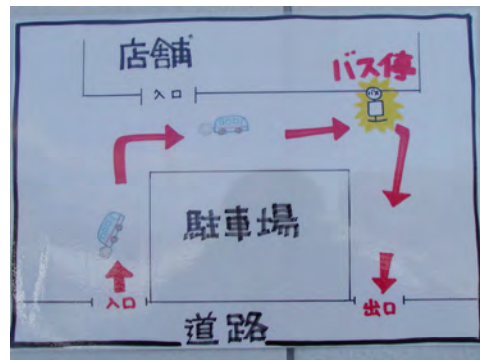
□サポートに至った経緯

- ・当初、商業施設（スーパー）と医院の間くらいにバス停設置を検討していた。

- ・運行前の地元説明会の中で、住民の方や高齢者の方から次のような意見・要望があった。

住民の方：「通院しているお年寄り、足が悪かったり、買い物をしてから荷物を持って歩くのは大変である」という意見

高齢者の方：「買い物に行く時はいつも家族と一緒にだが、一人で買い物にも行きたいが、荷物もあるので出来るだけ近くまで行ってほしい」という要望



▲道路とバス停の位置関係

- ・事務局で意見・要望を検討し、「運行時間は長くなるが、各施設の入口まで運行することは利用者の増加にもつながるのでは」との方向でまとまった。
- ・平成 21 年 6 月、事務局から、町内のスーパー（2 社）と医院（2 箇所）に「正面入口（玄関前）にバス停を設置したい」とお願いしたところ承諾を頂いた。
スーパー：正面玄関へのバス停の設置、バスの乗り入れに対する協力、バス待ちスペースへのベンチの設置
医 院：正面玄関前までのバス乗り入れについての協力
- ・平成 21 年 7 月、バス停設置について法定協議会に諮り承認され、設置された。
- ・平成 21 年 10 月 1 日、新設バス停でスタート。

□サポート事業概況と効果

- サポート主体 地元商業施設、地元医療施設
- サポート公共交通機関 たてしなスマイル交通
(東回り線、西回り線)
- サポート内容
 - (1) バス乗り入れに対しての協力 (各施設)
 - (2) バス停設置スペースの提供
(商業施設：正面入口、医院：正面玄関前)
 - (3) ベンチ (バス待ち用) 設置スペースの提供

効 果

商業施設：高齢者の「自分で買い物をしたい」というニーズに応えられており、高齢者の日常生活の交通手段として定着しつつある。

医院：今まで家族・近所の方の送迎やタクシーで通院していた方が「一人で通院できるようになった」。

サポート実施の秘訣（立科町へのアンケート結果より）

- ・運行前の地元説明会での住民の方や高齢者の方の意見・要望を十分に聞き、これを運行計画に反映させたこと。
- ・各施設への配慮として、バス停の設置は快諾頂いたが、他のお客さんもいるので、駐車場内での交通事故やトラブル等も懸念されたため、バスの駐車場内の進行方向や乗降位置について詳細に打合せをし、運転手にも徹底させていること。

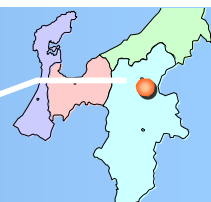
お問い合わせ先

立科町町づくり推進課

TEL:0267-56-2311

URL: <http://www.town.tateshina.nagano.jp/>

長野県 上田市（うへだし）



□ポイント

- 上田電鉄（別所線）の存続と利用促進を願う地権者と別所線電車存続期成同盟会が協力して別所線駅前にパーク＆ライド駐車場を整備。
- 駐車場は、別所線利用者に無料で提供。

パーク・アンド・ライド整備

（別所線利用者の無料駐車場）



大学前駅（H17～18年度）62台
（丸子・武石方面 利用拡大）



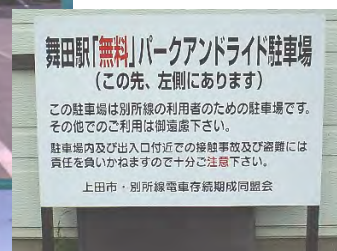
中野駅（H18年度）5台

（沿線自治会、別所線電車存続期成同盟会が自らの手で整備）



舞田駅（H17年度）10台

（沿線自治会、別所線電車存続期成同盟会が自らの手で整備）



▲パーク＆ライド駐車場

□取り組みの概要

だれがサポート？：別所線電車存続期成同盟会、沿線自治体

どの公共交通に？：上田電鉄（別所線）

どんなサポート？：駅隣接地でのパーク＆ライド駐車場整備（3駅合計で、77台分）

どういう方法で？：このサポート事業は、別所線再生支援協議会（平成17年2月に関係する25団体により設立された）の参画団体のひとつで、別所線沿線の自治会を中心に構成する「別所線電車存続期成同盟会」が別所線の利用促進のために取り組んでいる活動の1つである。

- ・サポートの具体内容は、別所線の主要駅において駐車場を整備し、別所線利用者に対して無料で駐車場の提供を行うというものである。
- ・自治体は、当該土地の農振除外、農地転用手続き代行、駐車場整備に要する資材支給、当該土地所有者との土地使用貸借契約を締結し、固定資産税減免を行っている。

□サポートに至った経緯

- 平成5年頃から舞田駅周辺の整備を求める陳情が自治体から市に対して行われていたが、駅周辺には個人の土地であるため、市では対応出来なかった。
- その後、平成15年に駅前土地所有者から別所線利用促進を目的として、土地（農業用地）の無償貸与の申し出があった。
- これを受けて、市が当該土地の農振除外、農地転用手続きの代行等を行った。
- しかし、整備に当たっては、当該土地が個人の所有であることから、公費による整備ができず、結果として別所線電車存続期成同盟会の会員である自治会役員と地元建設会社のボランティアで整備を行った。
- この間の経緯については次の通り。

平成5年頃：自治体から舞田駅周辺の整備を市に陳情

平成15年：舞田駅前の土地所有者から無償貸与の申し入れ

平成17年5月：当該土地の農振除外、農地転用手続き完了

平成17年7月：7日間の整備作業を経て駐車場完成

平成17年8月：舞田駅パーク＆ライド駐車場として一般開放

平成17～18年度：大学前駅に、丸子・武石方面の利用拡大を目的として整備

平成18年度：中野駅に、沿線自治体と期成同盟会が自らの手で整備



▲駐車場整備の状況を伝える当時の新聞記事
信濃毎日新聞（平成17年6月）

□サポート事業概況と効果

- サポート主体 別所線電車存続期成同盟会、沿線自治体
- サポート事業 パーク＆ライド駐車場の整備
- 事業実施場所 別所線駅前
- 整備内容（整備駅、整備規模）
 - ・舞田駅 10台分
 - ・大学駅 62台分
 - ・中野駅 5台分

効果

駐車場を整備した結果、雨天時等の別所線利用者の送迎が便利になったこと（以前は路上駐車）が別所線を二次交通として利用する方の確保にもつながっている。

サポート実施の秘訣（上田市へのアンケート結果より）

- ・別所線存続及び利用促進のため、パーク＆ライド駐車場を整備するに当たり、市に対して土地を無償貸与して頂ける地権者がいたこと。
- ・駐車場整備をボランティアで行ってくれる住民と建設会社がいたこと。

お問い合わせ先

上田市都市建設部

TEL:0268-22-4100

地域交通政策課

URL: <http://www.city.ueda.nagano.jp/>

新潟県 佐渡市（さどし）

□ポイント

- 外国人観光客向けの英語版バス時刻表等を、外国人のニーズに合わせて毎年更新・作成。
- 通訳案内士の方が英語版観光マップ（バス路線入り）を 2002 年サッカーワールドカップ開催に合わせて作成したのがきっかけ。

▲英語版バス時刻表

□取り組みの概要

- だれがサポート？**：佐渡在住の事業者（通訳案内士）
- どの公共交通に？**：佐渡汽船、路線バス（新潟交通佐渡株）
- どんなサポート？**：外国人観光客向けの案内マップ・バス時刻表等を作成、配布
- どういう方法で？**：通訳案内士が 2002 年サッカーワールドカップで佐渡ヶ島にも外国人を誘客したいと英語の観光マップ（バス路線入り）を作成したのがきっかけ。以後、英語版佐渡汽船時刻表、島内路線バス時刻表、英語版観光マップ、ホームページ上での英文情報提供等、外国人のニーズに合わせて毎年、更新デザイン費用は無料、印刷費用を企業負担で作成、外国人誘客に努めており、好評を得ている。

□サポートに至った経緯

- ・2002 年サッカーW杯で多数の外国人観光客が新潟に来ることが見込まれ、それを佐渡にも呼び込もうと佐渡の英語観光マップを作成したことがサポート実施の背景となった。
- ・前年には、準備段階として、外国人向けの英語のアンケート用紙を佐渡島内の宿泊所や案内所に置いて、「どんな情報が欲しいか」についての調査を実施した。

- ・その結果、当時発行されていなかった「英語版のバス発着時刻表」の要望が、宿泊所、レストラン、観光名所などを引き離して、一番多いことが分かった。
- ・これを受けて、ワールドカップ 2002 年の佐渡への外国人集客を目指して、同年に佐渡の英語観光マップを作成した。
- ・このためマップには、島内の路線バスの経路を色別に表記するとともに、バス乗り場の案内を詳しく入れ、乗り場紹介コーナーも設けた。
- ・これと合わせて、新潟交通佐渡㈱と佐渡汽船にはたらきかけて英語時刻表の発行も始まった。
- ・英語マップは、1 年限りの限定版で、1 万部を作成・配布している。
- ・マップは、2002 年限定の作成であったが、英語時刻表については好評だったことから以後外国人の動向に合わせながら毎年更新して発行を継続している。
- ・マップや時刻表の制作費については、島内の民間業者が広告料として負担し、取りまとめは事業者が行っている。



▲最初に作成した時の新聞記事(新潟日報 H14. 2. 9)

□サポート事業概況

- サポート主体 佐渡在住の事業者（通訳案内士）
- サポート交通機関 佐渡島内の路線バス、佐渡汽船㈱
- サポート対象 外国人観光客
- 実施内容
 - (1) デザインの更新 毎年、外国人のニーズに合わせて更新
 - (2) 更新デザイン費用 無料
 - (3) 印刷費用 印刷費のみ企業負担で作成

サポート実施の秘訣（佐渡市へのアンケート結果等より）

- ・これがないと日本語が分からない外国人観光客が困ることを承知しているので、佐渡を訪れる外国人たちには良い思いをしていただきたい、良い思いをしていただければ皆さんが自国に帰ったときに宣伝してくれるという強い思いを持って取り組んだこと。
- ・結果として、最近では外国で発行されている日本を紹介する観光ガイドブックの中で島内の観光案内所には英語の時刻表があると紹介されるようになった。

お問い合わせ先

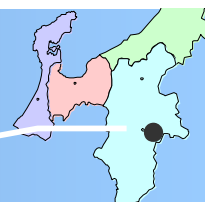
佐渡市企画財政部

TEL:0259-63-3111

交通政策課

URL: <http://www.city.sado.niigata.jp/>

長野県 茅野市（ちのし）



□ポイント

- 地域の大学と地元バス会社とが連携した取り組みで、学生を対象に通学バスパスポート（最寄り駅・大学間が無料で利用できるもの）を発行。
- 路線バスで通学する学生の経済的負担の軽減、路線バス利用の活性化の両面での効果につながっている。



▲茅野駅・理科大間の路線バス



▲通学バスポート導入時の新聞記事
(信濃毎日新聞、H20.5.14)

□取り組みの概要

だれがサポート？：地元大学（諏訪東京理科大学）

どの公共交通に？：路線バス（諏訪バス(株)）

どんなサポート？：学生を対象とした通学バスパスポートの発行（茅野駅・大学間が1年間無料で乗り放題できる）

どういう方法で？：JR 茅野駅・大学間を利用して通学する学生の運賃を大学側が負担してバス会社に支払うという仕組み。

- ・具体的には、大学内において通学バスパスポート（1年間有効）発行手数料を1,000円と定め、同区間の通学定期代（1年で97,200円）を大学側が負担するというもの。
- ・学生は「経済的に助かる」と歓迎。大学は「地域の路線バスは利用客が減ると存続が危うくなってしまうので、こうした取り組みが地域貢献につながれば」と言う。バス会社も「こうした取り組みによって乗客が増えることは有難い」と話す。

□サポートに至った経緯

- ・平成18年度に諏訪東京理科大学内で在学生を対象に実施（7月5日～11日）した「諏訪東京理科大学学生満足度アンケート」において、「バスの本数が少ない」「運賃が高い（当時、片道300円、1

ヶ月定期 9,000 円、現在も同額)」との意見が寄せられた。(主な意見は、次の通り)

ダイヤに関する意見：

バスの本数(学校・茅野駅間)を増やして欲しい。

土休日のバスが、もっと出るようにして欲しい。

バス時間と帰りの電車時間がうまくかみ合わない。

運賃に関する意見：

バスを利用する学生にとって 1 日 600 円、1 ヶ月 9,000 円のバス料金は高すぎます。このバス料金の経済的負担は大きいので、もっと安くして下さい。

・アンケートの意見を受けて、諏訪東京理科大学独自のスクールバスを運行することも検討したが、スクールバスでは既存のバス路線に影響が出ることを懸念した。このため、既存のバス路線を活用させていただくこととし、通学バス路線運営元の諏訪バス㈱と協議を行った。

・平成 19 年度 1 年間をかけ、諏訪東京理科大学と諏訪バス㈱において協議を行い、以下のとおり締結した。

○学生の運賃を大学が負担する。

○諏訪東京理科大学発行の通学バスパスポートを乗務員に提示することで、無料で利用できる。

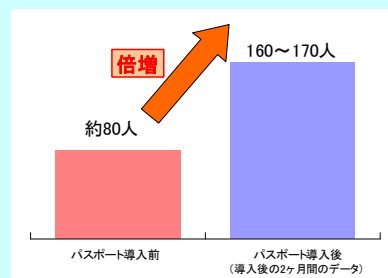
○通学バスパスポートの利用区間は、最寄駅である JR 茅野駅から理科大(長倉入口)となり、この区間内であれば、どの停留所でも自由に乗降できる。

○諏訪東京理科大学内において通学バスパスポート発行手数料を 1,000 円と定めた。

・平成 20 年 4 月より、通学バスパスポート制度が実施され、これに合わせてバス運行本数(平日)も、大学から駅の便が 5 本→12 本に、駅から大学の便は 8 本→10 本に増便され、利便性は格段に向上した。また運行時間も講義開始・終了時間や電車の茅野駅到着時刻に合わせて改善がなされた。

□サポート事業概況と統計データ

- 実施者 諏訪東京理科大学
- 実施路線 諏訪バス㈱路線
(茅野駅～理科大
(諏訪東京理科大学))
- 対象者 諏訪東京理科大学生のうち、通学バスポートの発行手続きを行った学生
- 実施理由 路線バスで通学する学生の経済的負担の軽減
- 実施内容
(1) 運賃 通学バスポート購入費(1,000 円)で 1 年間、無料で利用
(2) 利用条件 駅～大学間の路線バスが乗り放題。同区間内での乗降は、どの停留所でも自由



▲学生のバス乗車人数(1日平均)の推移

サポート実施の秘訣(茅野市へのアンケート結果等より)

- ・地域の大学と地元バス会社が、学生のバス通学による経済的負担軽減と路線バスの維持・活性化という共通の目的を持って連携し取り組んだこと。
- ・結果として、通学バスを利用する学生が増加する一方で、自動車での通学者が減っている。これは、大学駐車場の使用許可申請の減少からも読み取れる。その他「運行便数が増えて電車との連絡が向上したことで1時間目を遅刻する学生が減った」という想定外の効果もあった。

お問い合わせ先

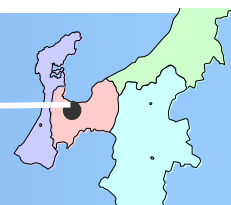
茅野市企画総務部

TEL:0266-72-2101

企画課

URL: <http://www.city.chino.lg.jp/>

富山県 高岡市（たかおかし）

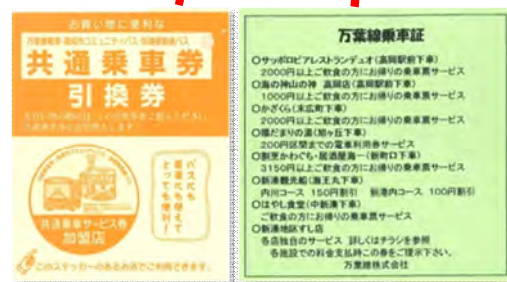


□ポイント

- 地元（高岡市内の商店街・商業施設、万葉線沿線の店舗・施設、住民、企業等）のサポートに支えられて走る万葉線（乗車回数券販売・購入支援、買い物客への乗車券進呈サービス、「万葉線を愛する会」のサポート等）



▲万葉線の運行風景



▲乗車券引換券

□取り組みの概要

だれがサポート？：高岡市及び射水市の商業施設・商店、住民、企業

どの公共交通に？：万葉線（路面電車）

どんなサポート？：共通乗車券販売支援、共通乗車券の購入支援&買い物客への共通乗車券進呈サービス、万葉線限定の乗車券進呈サービス、会費による支援、共通乗車券引換券の印刷支援

どういう方法で？：共通乗車券（万葉線、路線バス（加越能バス）、コミュニティバス共通で利用できる）のまちづくり会社（高岡町衆サロン）による販売支援。

- ・地元商店街組合及び商店による購入支援&買い物客への共通乗車券進呈（2,000円当たり 100円券1枚）サービス
- ・万葉線(株)との提携する沿線店舗・施設による買い物客や利用客への万葉線乗車券進呈や割引サービス（電車内に万葉線乗車証（サービス引換証）を備え付けて対応）。
- ・「万葉線を愛する会」による会費支援（1口：個人千円・法人1万円／年、会員特典：万葉線回数券の提供、多数施設での割引サービス等）。
- ・自治体（高岡市公共交通利用促進協議会）による共通乗車券引換券（電車、バス内に備え付け）の印刷支援

□サポートに至った経緯

- ・万葉線を運営していた加越能鉄道が、利用者の著しい減少と経営

環境の悪化を理由に廃止とバス代替意向を示したため、存続を願う高岡市と旧新湊市が中心となって平成13年に第三セクター会社の万葉線(株)を設立した。

- ・平成14年2月に、加越鉄道から事業譲渡され、同年4月1日から新会社にて正式に運行を開始した（路面電車運営の第三セクター会社としては日本初）。
- ・平成16年1月には超低床車両（愛称：アイトラム）を導入しての運行を開始した。
- ・買物客への共通乗車券進呈サービスについては、当初は、コミュニティバスの試験運行（平成12年11～12月）における利用の魅力付けとして試験的に実施したものである。
- ・平成13年10月のコミュニティバス本格運行開始に合わせて、共通乗車券の利用範囲を、万葉線及び路線バスにも拡大している。
- ・また、平成5年度には、地域レベルで支援の「万葉線を楽しむ会」の会員募集が始まり、これは現在も継続中である。
- ・さらに、万葉線(株)でも、独自に平成17年より万葉線の利用客増を目指して、沿線の店舗・施設と提携し買物客や利用客への万葉線乗車券進呈サービス等を開始している。



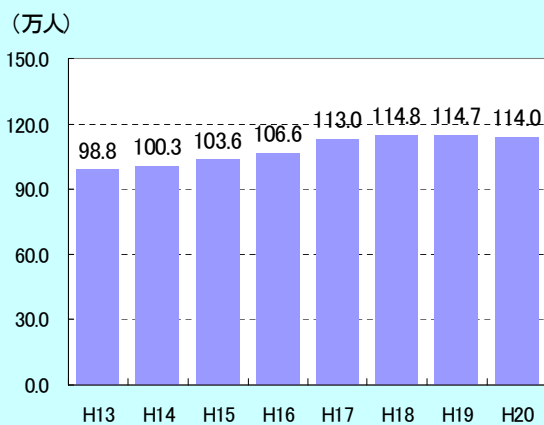
▲共通乗車サービス券加盟店ステッカー



▲「万葉線を楽しむ会」会員証

□サポート事業概況と統計データ

- 運行主体 万葉線(株) (第三セクター会社)
- 営業開始 平成14年4月1日
- 車 両 アイトラム
(超低床構造の2車体連接車)
- 支援実績
 - ・ 共通乗車券進呈サービス加盟店：182店舗
(H22年2月現在)
 - ・ 共通乗車券の販売（高岡町衆サロン）：2,895冊
(H21年度)
 - ・ 万葉線沿線店舗・施設での乗車券進呈数（540枚
(H22年1月))
 - ・ 万葉線を楽しむ会の会員数
(個人2,225人、法人54事業所 (H20年度))
 - ・ 共通乗車引換券の印刷（4万枚/年）



▲万葉線の乗車人数の推移 (万人/年度)

サポート実施の秘訣（高岡市へのアンケート結果より）

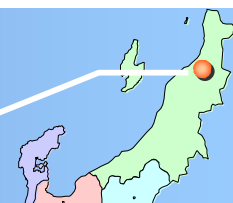
- ・ 地元商店街の活性化策の一環として、まちづくり会社、商店街組合・中心市街の個別店舗、万葉線沿線店舗、公共交通事業者（万葉線、加越能バス）、自治体が協力し合いながら積極的に活動に取り組んでいること。

お問い合わせ先 高岡市生活環境部 TEL:0766-20-1139

地域安全課

URL: <http://www.city.takaoka.toyama.jp/>

新潟県 新発田市 (しばたし)



□ポイント

- ショッピングセンターが独自運行していた無料バスの経路上に、市が循環バスを運行する計画を検討。
- クルマを持たない利用客の交通手段を低コストで維持したいショッピングセンター側と、循環バスを高い利用率で運行させたい行政側の思惑が一致、官・民による“Win-winの関係”で循環バスを運行



▲イオン新発田ショッピングセンター

□取り組みの概要

だれがサポート？：イオン新発田ショッピングセンター（イオンリテール(株)）

どの公共交通に？：新発田市・市街地循環バス

どんなサポート？：循環バスを利用して買い物に来るお客様に回数券を進呈する。

どういう方法で？：ショッピングセンターでは、乗車人数データから、予め想定される人数の回数券を市より購入し、店舗でバス乗降客へ直接手渡し配布している。

□サポートに至った経緯

- ・平成 17 年 4 月 イオン新発田ショッピングセンター開店。開店後、店舗独自で新発田駅や市街地と店舗を繋ぐ『お客さま無料送迎バス』を往復各 10 便運行し、クルマの無い層への交通手段を提供（新潟交通観光バス(株)への運行委託）。
- ・バスの乗車実績は平均 8.6 人／便と、比較的多くの方に利用されており、1 人あたりのコストは約 244 円／人であった。
- ・同年、新発田市では、国土交通省の公共交通活性化プログラムにより、市街地の循環バスを計画しており、計画路線及びバス停留所の殆どがイオンの『無料シャトルバス』と重なっていた。



▲お客様無料送迎バスルートと新発田市市街地循環バス計画路線

- ・そこで、両者の協議により、イオン側は、交通弱者の来店手段としてバス運行継続は必要であると同時に、地域貢献として市の循環バス運行に協力したいこと、市側は、実証実験終了後の本格運行に向けて利用率を高める必要があり、利用数の多いイオン利用客を当該路線に引き込むことは大きな魅力であったことから、下記方法で実施されることとなった。

○イオン『お客さま無料送迎バス』の廃止

○市が発行する乗車券（回数券）を一定数購入し、それらを店舗利用客へお渡しすることで、市の市街地循環バスで来店頂けるよう対処する。

- ・平成 18 年 11 月 新発田市市街地循環バス実証運行開始、それに伴い、イオン『お客さま無料送迎バス』の運行を廃止。
- ・平成 21 年 4 月 運行ルートの一部変更し、店舗により近いバス停「ジャスコ北口」を新設。
- ・平成 21 年 7 月 イオン側で「ジャスコ北口」上屋やベンチを設置、利用環境の向上に努めている。
- ・実施後、お客様へのバス回数券の配布方法を変更し、現在はバス停最寄りの店舗出入口でバス利用者に直接手渡し配布を行っている。
- ・店舗側は、来店者用のバスを確保しながら、経費が約 9 割削減することができ、行政側は、施設の利用者をバス利用者として取り込み、確保しながら循環バスを運行することができ（ジャスコ北口バス停の H21 現在利用者 50～80 人／日程度）、お互いのメリットが得られた形で運行されている。



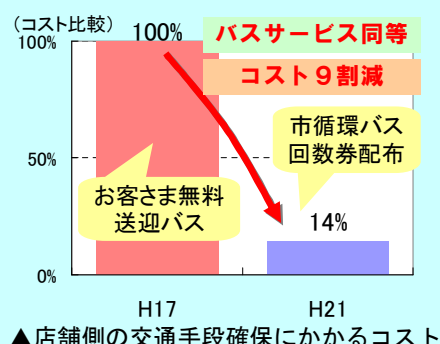
▲店舗側が新設したバス停（H21.7 新設）



▲バス回数券はバス停最寄りの入口で、お客様に直接手渡ししている

□サポート路線概況と統計データ

- 運行主体 新発田市（当初実証運行期間：H18.11～H21.3、以降、見直しにより、3 カ年の実証運行継続中）
- 運転業務 新潟交通観光バス(株)
- 運行内容
 - (1) 運行経路 新発田駅、ジャスコ前等を含む市街地循環・両回り
 - (2) 運行回数 右回り 平日 10 本 土休日 7 本
左回り 平日 9 本 土休日 6 本
 - (3) 運行時間 午前 7 時頃から午後 7 時 30 分頃まで（通年）
 - (4) 運賃 1 人 1 乗車につき 100 円。



サポート実施の秘訣（イオン新発田ショッピングセンター・阿部マネージャーのお話）

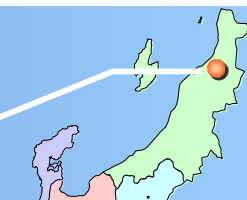
- ・自社による無料シャトルバス運行は利用者が非常に多かったが、店舗への買い物目的外の乗車もみられていたという状況があった。
- ・市は利用率の高い循環バスの運行意向があり、当方はおお客様の足を確保しながら経費を削減できるという思惑が一致したこと。

お問い合わせ先 新発田市地域協働推進部 TEL：0254-22-3101

公共交通対策課

URL：<http://www.city.shibata.niigata.jp/>

新潟県 新発田市 (しばたし)



□ポイント

- 路線バス廃止を機に、住民主体による組織を立ち上げ、バスを運行。
- “1 世帯年間千円だけ”の賛助会員に住民の3割以上がサポート、地元バスの運営に参画。利用者は従前と比較して大幅増に。



▲コミュニティバス車両と回数券

□取り組みの概要

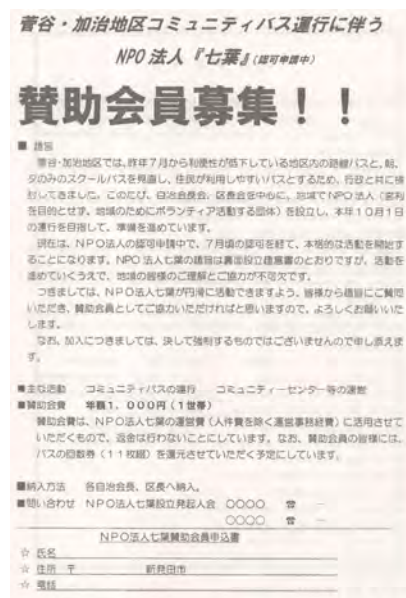
だれがサポート？：新発田市菅谷・加治地区の住民

どの公共交通に？：地区を運行するコミュニティバス

どんなサポート？：バスを運行する NPO 法人の賛助会員（会費千円／年）に入会することで、バス運行を支援している。

どういう方法で？：賛助会員は、年に1回、年会費として1世帯あたり1,000円を負担している。

- ・賛助会員になると、特典としてバス回数券（11枚綴り）が配布される。
- ・現在、地区の世帯数1,900のうち、3割以上が賛助会員で、会員数は増加傾向にある（口コミによる効果が大きい）。
- ・コミュニティバスは、保育園バスのほか、小・中学校のスクールバス、高校の通学バス、また、高齢者の通院や買い物等で利用されており、子供から大人までずっと利用できるのも、地区人口は減少傾向であるが、利用者（会員）は簡単には減る状況にない。



▲賛助会員募集のチラシ

□サポートに至った経緯

- ・平成17年 菅谷・加治地区のバス路線の廃止代替路線の維持検討および、以前から要望が出されていたスクールバス運行を併せて、住民主体で総括的に見直し・検討を行うこととした。
- ・平成17年7月 最初の『菅谷地区バスを考える会』が開催され、この中で、小中学生だけでなく、

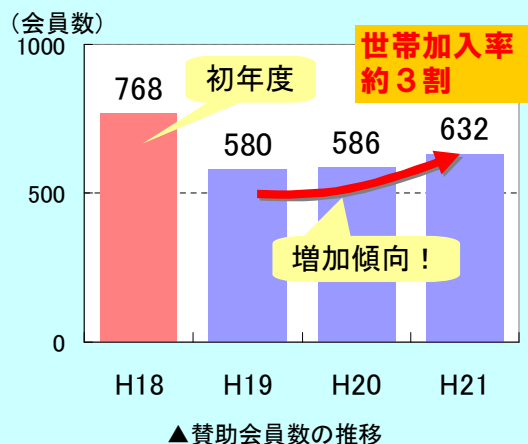
高校生の通学の足の確保と、通院・買物等生活に必要な交通の確保を中心に討議を重ねた。

- ・また、検討するにあたっては、住民には、見直し運行後において利用が少なく経費が嵩んだ場合には廃止も有り得ること、存続可否の全ては住民の方の利用にかかっている前提で協議を行った。
- ・平成 17 年 11 月 地区住民は、どういうバスにしたいのか、代替バスを運行した場合、本当に利用するのかどうかを確認するため住民アンケートを行った。その結果、ある程度の利用が見込まれることとともに、「地域から乗り換えせずに目的地へ行き、帰って来たい」という声が多く寄せられた。
- ・平成 18 年 1 月 様々な検討を経て、代替バスは、地元で NPO を立ち上げ、運行を行うことで、これまでのバス路線への補助よりも経費が圧縮でき、更に利便性が上がる見込みが立った。そして、これら運行方針について市長へ報告を行った。
- ・平成 18 年 3 月 NPO 七葉 設立総会。
- ・平成 18 年 6 月 NPO 七葉 法人認可。
- ・平成 18 年 10 月 NPO 理事会による合計 7 回の運行準備会を経て、コミュニティバス出発式が行われ、地元主体によるバスの本格運行に至った。この間、約 1 年 3 ヶ月の間に、合計 22 回も協議を経て運行実現に至った。
- ・平成 22 年 3 月現在 中型 5 台・マイクロ 2 台・保育園バス 1 台、運転手 10 名により運行がされている。

運行状況は、運行本数平日 39 本・休日 17 本、バス停留所数 77 箇所（市街地循環線含む）、1 便あたりの乗車人数 5.2 人（H20 年度平均）、回数券利用率 65%（H20 年度平均）

□サポート路線概況と統計データ

- 運行主体 新発田市（H18. 8. 8 許可）
- 運転業務 NPO 法人七葉（H18. 6. 16 設立）委託
- 根拠法令 道路運送法 79 条バス
- 運行内容
 - （1）運行経路 上荒沢方面（国道 290 号）、熊出方面（広域農道フルーツライン）
 - （2）運行回数 平日 39 本、土日祝 17 本
 - （3）運行時間 午前 6 時頃から午後 8 時 30 分頃まで（通年）
 - （4）運賃 菅谷・加治地区の区域内については、1 人 1 乗車につき 100 円。
区域を越えて中心市街地まで乗車する場合は、100 円を加算する。（小・中学生は半額、乳幼児は無料）



サポート実施の秘訣（NPO法人七葉・齋藤理事長のお話より）

- ・住民が主体となってバスの運行を行っていること。
- ・運転手 10 名の殆どが地元出身で、かつバス・タクシー会社運転手 O B であること。
- ・安価な賛助会員費用を多くの世帯が購入し、地区のバスに協力する精神が根付いたこと。
- ・バス運賃が 100 円と安価であり、昨今の社会情勢でも、実質的な利用増に繋がったこと。

お問い合わせ先

新発田市地域協働推進部

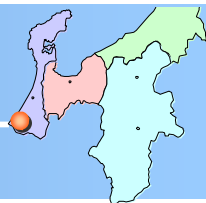
TEL : 0254-22-3101

公共交通対策課

URL : <http://www.city.shibata.niigata.jp/>

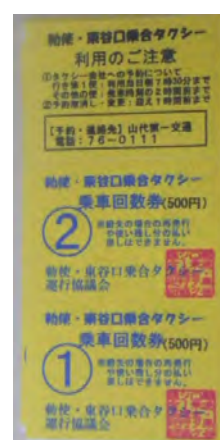
住民での乗車券販売促進、商店のスペースを待合所として提供

石川県 加賀市（かがし）



□ポイント

- 路線バス廃止を機に、住民と市が協力し組織を作り、乗合タクシーを運行。
- 地元主導で回数券の販売、賛助会員会費支援、市の効果的な支援。
- 利用者は、現行サービスに対して大いに満足。



▲乗合タクシー、待合スペース、回数券

□取り組みの概要

だれがサポート？：加賀市勅使地区・東谷口地区の住民による運行協議会、加賀市

どの公共交通に？：地区と市内主要施設間を運行する乗合タクシー（デマンド方式）

どんなサポート？：乗車回数券の販売促進、建物の一部を待合スペースに無償提供

どういう方法で？：乗合タクシー事業は、住民で組織する運行協議会が事業主体となっていて行っている。

- ・乗車回数券の販売については、町内会長や住民の販売推進員が行っている。
- ・地区内の商店や農協において乗車回数券の販売を無償で取り扱っている。
- ・乗車地点となっている商店・民間宅等では、建物の軒先を待合スペースとして無償提供している。

□サポートに至った経緯

- ・平成 19 年 5 月、勅使・東谷口地区のバス路線廃止計画が明らかとなった。
- ・平成 19 年 8 月、公共交通の現状と今後について住民、バス事業者、市で意見交換。
- ・平成 19 年 10 月、市から両地区区長会に対し、バスの代替として乗合タクシーを提案した。
この時点で、乗合タクシーに対してはまだ半信半疑であったが、一方で「なくなったバスが復活することはありえない。自分達でやるしかない」という意識が地区区長会の中で芽生えてきた。
- ・平成 19 年 11 月に、両地区区長会と市が協力して乗合タクシーの運行に取り組む方向で決定し、検討

を開始した。

- 平成 20 年 2 月には、両地区の町ごとに高齢者を集めて説明会を実施した。周知は、町内回覧板のほか、利用が見込まれる住民に区長が個別に声をかけるなどした。
- 平成 20 年 3 月、勅使及び東谷口地区それぞれで実験運行を開始した。実施形態は、市が地区区長会に実験運行業務として委託し、それを受けた地区区長会がタクシー会社に運行を委託するものとした。
- 運賃支払いが回数券方式であるため、その販売を各区長、区長事務所、地元商店等が協力して取り扱うこととした。
- 平成 20 年 6 月、市の実験運行業務を終了し、住民主体の運行へと移行した。
- 移行に際して、両地区は隣接しながらも別々に運行していたものを共同の運行として一体化し「勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会」を発足した。
- 以後、2 月ごとに定例会を開催しながら、利用促進等の取組みを実施し現在にいたっている。
- 運行収支は 80% を超えており、付随する様々な効果（家族による高齢者の通院送迎等の負担が減り、高齢者側からは家族への遠慮が解消された。賛助会員として地区内の団体や個人からの応援が生まれた等）も現れている。



▲北国新聞（平成 22 年 2 月 25 日）

□サポート路線概況と効果

○ 事業主体 勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会
(H20 年 6 月発足)

○ 運転業務 加賀第一交通 委託

○ 運行内容

(1) 運行区間 勅使地区・東谷口地区 ↔ 市内主要施設
(病院、商業施設、温泉)

(2) 運行日 月、水、金曜日

(3) 運行時間 行き便 (2 便 8:30、10:00)

帰り便 (3 便 11:00、12:30、14:30)

(4) 運賃 1 回乗車につき 500 円。

以前の路線バスよりも「のりあい号」の利用が増えた
主な理由（利用者への聞き取り調査結果）

- ・目的地へ直接行ける
- ・必要な時間に利用できる
- ・他の人に送迎してもらおうという気遣いがいらな
い
- ・1,000 円で安く往復できる
- ・病院の帰りに薬局。スーパーや商店に寄れる
- ・2 地区の人だけの乗車なので不安感がない
- ・チケットが区長さんや協力員など町内で購入で
きる

サポート実施の秘訣（加賀市へのアンケート結果より）

- ・住民が「自分達で作り、守り、育てる公共交通」の意識を持って真剣に取り組んだこと。
- ・事前に実施した需要調査をアンケートに止まらずに、区長会が高齢者等から聞き取りを行い
確かなデータを得たこと。
- ・利用促進の取組みを、継続的に行っていること。

お問い合わせ先

加賀市総務部

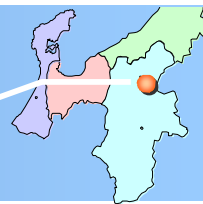
TEL:0761-72-1111

交通対策室

URL: <http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>

レンタサイクルの実施

長野県 上田市（うへだし）



□ポイント

- 別所線電車期成同盟会が駅からの二次移動手段として、レンタサイクルの貸し出しを実施。
- レンタサイクルの利用料金は無料、沿線の2駅に合計10台を置いて対応。

別所線無料レンタサイクル

塩田平を気軽にサイクリング
塩田平に点在する史跡を自転車で巡って散策してみませんか。

ご利用の案内
受付時間：午前9時～午後5時

下之郷駅（下之郷駅ホームきっぷうりば）
自転車配置数 5台

別所温泉駅（別所温泉観光協会：下地図参照）
自転車配置数 5台

進捗について
自転車は借りた駅にお返しください。

別所温泉駅
別所温泉観光協会
上田電鉄（上田駅）

「自転車はうーっときつりかな」という方へ
上電バスで運行するシャトルバス「信州の鎌倉」もご利用いただけます。

進行期間 4月1日～11月30日
問い合わせ
上田バス株式会社 0268-22-1504

レンタサイクルに関するお問い合わせ、ご要望は
別所線電車存続期成同盟会事務局
上田市都市建設部地域交通政策課
0268-22-4100（内線1509）
上田電鉄別所線下之郷駅 0268-38-7950
別所温泉駅 0268-38-2018



▲レンタサイクルのチラシ、レンタサイクル用の自転車

□取り組みの概要

だれがサポート？：別所線電車存続期成同盟会

どの公共交通に？：上田電鉄（別所線）

どんなサポート？：レンタサイクル

どういう方法で？：別所線の2駅（下之郷駅、別所温泉駅）において合計10台で対応（料金は無料）。

- ・事業の実施主体は別所線電車存続期成同盟会であるが、実際の鍵管理は自転車利用を必要とする駅で行っている。
- ・自治体からの直接支援は無し。ただし、修繕費等維持管理に要する費用は同盟会負担であるが、その基となる同盟会に対しての補助金は自治体が支出している。

□サポートに至った経緯

- ・信州の鎌倉と呼ばれる別所線沿線には寺社等が数多く存在するが、その多くが山間部に存在するため、

徒歩では時間がかかり、一度に多く訪れることが困難であることから移動手段の確保が検討された。

- ・その結果、観光面からの別所線の利用促進を図るため別所線沿線の寺社等への二次移動手段としてレンタサイクルの貸し出しを行うこととなった。
- ・レンタサイクル事業の実施主体は、別所線利用促進を支援する観点から、別所線電車存続期成同盟会が行っている。
- ・レンタサイクルの貸し出しは、平成 15 年 7 月に開始した。
- ・平成 16 年～平成 19 年にかけては 4 駅で実施していたが、鍵の貸し出し等管理上の問題から、現在（平成 22 年 3 月時点）は 2 駅で実施している。
- ・この間の経緯については次の通り。

平成 15 年 7 月～ 塩田町駅（5 台）、別所温泉駅（5 台）で開始

平成 16 年 8 月～ 下之郷駅（3 台）、舞田駅（3 台）でも開始

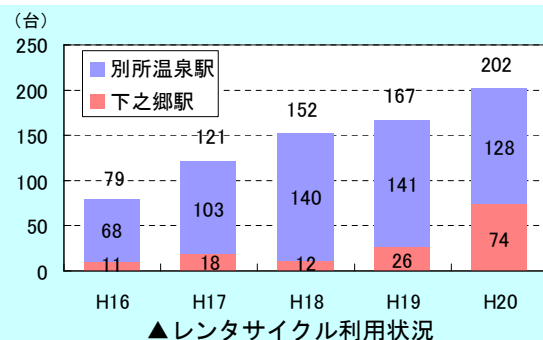
平成 19 年 10 月～ 塩田町駅、舞田駅での利用を終了し、別所温泉駅（5 台）、下之郷駅（5 台）の 2 駅での実施に切り替え

※経緯からも分かるように、この間においては「自転車の管理や鍵の貸し出しを頼める方がいないという理由から、貸し出し駅を減らさざるを得なかった」という状況もあった。

- ・レンタサイクル事業については、貸し出し駅が 2 駅になってからも年間 200 件以上の利用があり、地元では「別所線の利用促進に寄与している」と見ている。
- ・一方で、旅行者からは事前予約の申し出もあるが、台数が少ないことから当日の受付のみ対応しており、十分なサービスが提供できない状況がある。（理由：十分な駐輪場が確保できない等）
- ・レンタサイクルは、当日のみの貸し出しで、かつ借りた駅への返却を義務づけているものの、他駅への返却が発生することから自転車移動の手間が必要となるほか、自転車の維持管理には年間 5 万円程度の費用負担も発生する。

□サポート事業概況と統計データ

- 事業主体 別所線電車存続期成同盟会
- 事業路線 上田電鉄（別所線）
- 事業箇所 下之郷駅、別所温泉駅
- 事業内容
 - （1）使用自転車 放置自転車を整備したもの
 - （2）利用料金 無料
 - （3）受付時間 午前 9 時～午後 5 時



サポート実施の秘訣（上田市へのアンケート結果より）

- ・駅での鍵等の管理を行ってもらえる方がいる所に絞って実施していること。
- ・レンタサイクルの貸し出しは、当日のみで借りた場所への返却をお願いしているが、他の駅への返却も発生することから、自転車移動への対応が必要となる。
- ・統計的なものは無いが、HP 等を見てレンタサイクルがあることで訪れる利用者も多い。

お問い合わせ先 上田市都市建設部 TEL:0268-22-4100

地域交通政策課 URL: <http://www.city.ueda.nagano.jp/>

4. 公共交通利用促進のための民間サポートのポイント

今回事例収集（アンケート及びヒアリング）を行った結果から得られた、公共交通の利用促進に向けて先駆的に取り組んできたサポート好事例における「サポート展開・継続のポイント」について、今後の公共交通活性化に向けての参考になるよう、以下に整理し示します。

表 4-1 サポート展開・継続のポイント（1）

サポ-ト分類	サポート事例	サポート展開・継続のポイント
①清掃、維持管理	清掃、維持管理	市の広報誌にて活動団体を募集し、参加の申し出があった団体と協定を結んだ上での事業実施であり、団体自らが考え、行動を起こしている点がポイントとなる。 行政の押し付けでは団体は育たない。団体自らの発想で地域のバスを守り育てるという意識醸成ができなければ継続しない。
	駅周辺の花植え・草刈り・ゴミ拾い等	駅周辺地区の有志により活動を実施しており、地域の自治会を巻き込んだ取組となるよう努力しているが、地域住民の間でまだ温度差があるので苦労している。
	バス待合所の維持・管理	事業主体が地元町会なので、行政任せになっていないこと。 今後は、単なる待合所の設置だけではなく、同時にバスの利用促進を含めた啓発活動が必要。
	バス停美術館の整備	間伐材で額縁を制作しバス停へ取り付け、バス停留所に児童の絵画を額に入れて展示というもので、学校関係者との連携がうまくとれたことがポイント。
	駅舎清掃活動	記念日を定めたことにより、定期的に清掃活動を行う機運が高まったことがポイント。
	バス停の清掃・維持管理	市より地元地域振興会に理解を求めたこと。 地域住民の市民協同事業推進に関する理解があったこと。
	駅プラットフォームの改修	地域住民だけでなく、地元にある高校の生徒をはじめ、各種団体等の理解・協力もいただき、地域全体で取り組む体制ができたこと。
	夜間に無人になる駅の防犯巡回パトロール実施	地域が結束して、地域での協力体制の確立、及びパトロール車の維持管理費の捻出を行ったこと。
	バス停・待合所の管理	地元が自分たちのバス停という意識を持って管理している点。

表 4-2 サポート展開・継続のポイント（2）

サポ-ト分類	サポート事例	サポート展開・継続のポイント
② バス 停 等 敷 地 提 供	商店や医院にお けるバス停の 設置	運行前の地元説明会での住民の方や高齢者の方の意見・要望を十分に聞き、これを運行計画に反映させたこと。 また、各施設への配慮として、バス停の設置は快諾頂いたが、他のお客さんもいるので、駐車場内での交通事故やトラブル等も懸念されたため、バスの駐車場内の進行方向や乗降位置について詳細に打合せをし、運転手にも徹底させている。
	病院内敷地への バス停の設置	町と大学病院が協力関係を築けていることがポイント。
	商業施設内敷地 へのバス停の 設置	商業施設の開発誘致は町が行っていたため、バス事業者の協力が得られやすかったこと。
	商業施設内敷地 へのバス待合室 の設置	商業施設の協力（バスの施設内乗り入れに対する関連施設の整備、バス待合室の整備、関連経費の負担等）を得られたことが成功の秘訣。
①清掃、維 持管理 ② バス 停 等 敷 地 提 供	バス待合所設置 及び管理（清掃、 雪かき）	直轄国道の場合、町内会の占用を認めておらず、市が町内会に代わり占用許可をとって町内会が建築し、実質的な管理を行っていること。
	バス待合所の 設置及び管理	地元 NPO 法人が運転を担っていること、スクールバスと一体化していること、バスが地域の足として大切であるとの認識が高いこと、待合所が出来て雨雪の中でもバス待ちが楽になったこと、景観に合った木造と手作りの看板によりバスが一層身近な存在になったこと等が挙げられる。
③ パーク &ライド	パーク&ライド 駐車場の提供	別所線存続及び利用促進のため、パーク&ライド駐車場を整備するに当たり、市に対して土地を無償貸与して頂ける地権者がいたこと。 駐車場整備をボランティアで行ってくれる住民と建設会社がいたこと。 駐車場整備により、雨天時等の別所線利用者の送迎が便利になったことが別所線を二次交通として利用する方の確保につながった。
④ 案 内 マ ップ	外国人向け観光 マップ	佐渡を訪れる外国人たちには良い思いをしていただきたい、良い思いをしていただければ皆さんが自国に帰ったときに宣伝してくれるという強い思いを持って取り組んだ。
⑤MM・ノ マイカーデー	大学と提携した バスの運行	地域の大学と地元バス会社が、学生のバス通学による経済的負担軽減と路線バスの維持・活性化という共通の目的を持って連携し取り組んだこと。

表 4-3 サポート展開・継続のポイント（3）

サポ-ト分類	サポート事例	サポート展開・継続のポイント
⑥ 買 い 物 で無料券	共通乗車券の販売と買い物客への進呈	地元商店街の活性化策の一環として、まちづくり会社、商店街組合・中心市街の個別店舗、万葉線沿線店舗、公共交通事業者（万葉線、加越能バス）、自治体が協力し合いながら積極的に活動をしているため。
	大規模商業施設と行政のWin-Win 関係によるバス運行	自社による無料シャトルバス運行は利用者が非常に多かったが、経費も大きく、店舗への買い物目的外の乗車もみられていた。 市は利用率の高い循環バスを運行したく、当方はお客様の足を確保しながら経費を削減できるという思惑が一致した。 本取組により、市が進める『交通空白地帯の解消・交通弱者の利便性向上』に貢献できることが大きい。
	商店街ポイントシステムの導入	公共交通利用者等のニーズを踏まえ、より使いやすいシステム（ポイントがたまる商店街ポイントシステム）への改善を図っていくこと。
	「お買い物バス券」の導入	都心地区での買い物に対して初乗り運賃相当額のバス乗車券を提供するというもので、商店街連合会とバス事業者が協力し会えたことがポイント。
⑦ 乗 車 券 販売	住民賛助会員制による乗車券の販売促進	住民自ら主体となって運行していることが最も重要なことである。 運転手 10 名の殆どが地元（加治地区）出身、バス会社運転手 O B。 安価な賛助会員費用を多くの世帯が購入し、協力する精神が根付いた。 昨今の社会情勢でも、費用が安価であることが、実質的に利用増に繋がる。
	住民での乗車券販売促進	住民が「自分達で作り、守り、育てる公共交通」の意識を持って真剣に取り組んだこと。 事前に実施した需要調査をアンケートに止まらずに、区長会が高齢者等から聞き取りを行い確かなデータを得たこと。
	デマンドタクシー回数券の販売	商工会が、回数券取扱店へ回数券を渡す際、手数料相当分として定価から 5 %を差し引いた金額で斡旋していること。
	市内区間フリーきっぷの販売	「くろワン実行委員会」を組織し、コアメンバー（実行力のあるメンバー）を中心として運営（フリーきっぷの販売等）にあたっていること。
	特別割引回数券の販売斡旋	鉄道自治会（住民代表）等で構成される別所線電車存続期成同盟会が主体となり、回数券の販売斡旋を行っているため、行政主導で行うより、鉄道存続のための事業であることが住民に浸透していること。
	住民の回数券購入協力	地域と協働できたことがポイント。
	地域でバスを支える賛助会員	会費をバスの運営費に活用することで住民の参加協力意識の醸成が図られたこと、回数券の還元によりバスの利用促進が図られたこと。

表 4-4 サポート展開・継続のポイント（4）

サポ-ト分類	サポート事例	サポート展開・継続のポイント
⑧その他	レンタサイクルの整備	駅での鍵等の管理を行ってもらえる方がいる所に絞って実施していること。
	カラオケ大会の開催	鉄道の利用促進が目的の事業であるため、スタッフはすべてボランティアであり、事業継続にスタッフが協力できていることがポイント。
	写真撮影会の開催	プロカメラマンによる指導を受けられること、写真コンテスト入賞作品がポスター等に使用されること、モデル撮影が可能であることが、鉄道愛好家、写真愛好家どちらの立場でも参加可能としたことがポイント。
	駅前へのイルミネーション、オブジェ等の設置	市内企業や駅周辺の住民の方々の協力と駅の理解を十分に得ていること。 イルミネーションという近代アートと伝統芸能との融合していること。 イルミネーションオブジェの作製を市内小・中・高校生にってもらうなど、市全体で盛り上げていること。

5. (参考)他地域における民間サポート事例

5-1 他地域における民間サポート事例一覧

他地域での公共交通の利用促進に向けた民間サポートの主な事例についても収集し整理しましたので、次に示します。

表 5-1 他地域におけるサポート事例

NO	地方 運輸局	県名	市町村名	サポート内容								(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
				清掃	敷地	P&R	マップ	MM	買物券	自主購入	他	交通機関	実施場所	実施窓口	実施時期	実施内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧					
1	北海道	北海道	旭川市					○				路線バス	旭川市内	市民組織	H17～	市民WS主体で複数会社に跨るバスマップを作成、全戸配付
2	北海道	北海道	札幌市	○								路線バス	区内住宅団地	住民組織など	H17～	住民がバス停周辺の植栽管理、周辺清掃を実施
3	東北	青森県	鱒ヶ沢町								○	路線バス	鱒ヶ沢町深谷地区	住民	H5～	住民が回数券を自主的に購入し運行費用の一部を負担
4	東北	青森県	八戸市							○		路線バス	車内	商業施設	H19～	NPO・商業施設の協力で、バス内で買い物割引チケットを提供
5	東北	青森県	五戸町		○						○	コミバス	五戸町	町民組織	H16～	町内の医院や商店主体で自主運行、バス停を提供
6	東北	秋田県	北秋田市								○	民間鉄道	—	交通事業者	H22.1～	キップに企業広告を入れる取り組みを実施
7	東北	宮城県	仙台市			○						公営地下鉄	公共施設商業施設	関連財団法人	H15.11～	地下鉄駅周辺の公共施設および商業施設で実施
8	東北	宮城県	仙台市								○	コミバス	仙台市内	交通事業者	H12～	事業者が不便地区に独自運行
9	関東	栃木県	佐野市								○	コミバス等	佐野市内	協議会	H20～	市民・企業よりバスエコサポーターを募り運行をサポート
10	関東	茨城県	ひたちなか市			○						民間鉄道	市内観光地	交通事業者	H21.12	年末買い物渋滞用にP&R駐車場を提供
11	関東	埼玉県	秩父市								○	民間鉄道	車内	交通事業者	H21.12～	サイクルレインを本格運行を開始
12	近畿	福井県	福井市他						○	○		民間鉄道	福井市内ほか	サポータークラブ事務局	H17～	会員制度、乗車券割引、加盟店割引など実施
13	近畿	京都府	宇治市					○				路線バス	宇治市内	推進会議	H17～	地元企業、交通事業者、NPO、商工会議所らが協働し、MM実施
14	近畿	滋賀県	大津市								○	民間鉄道	車内	市民組織	H21.11	車内で美術館などを開催
15	中国	島根県	出雲市								○	民間鉄道	車内	交通事業者	H21.12～	車内で地元特産品を販売する「楽市楽電」を運行
16	中国	広島県	広島市						○	○		乗合タクシー	地区内	交通事業者	H15～	住民主導乗合タクシーの利用増加策を地域や事業者で検討、実施
17	四国	香川県	高松市						○			民間鉄道	高松市内	商店街	H20.2～	導入済みICカードを電子マネー化し商店街ポイント制度を展開
18	九州	福岡県	福智町他								○	民間鉄道	車内	交通事業者	H20.4～	つり革オーナー制度により、地域の鉄道への愛着心



図 5-2 「他地域におけるサポート事例」実施市町村の位置

5-2 民間サポートの事例

○1 市民 WS 主体で複数会社に跨るバスマップを制作（北海道 旭川市）

■交通機関：路線バス

■実施場所：旭川市内

■実施窓口：市民組織

■実施時期：H17～

■実施内容：市内のバス利用を促すため、複数会社の路線が一望できるマップを作成しようと、市職員、関係団体、バス事業者、市民らがワークショップにより協議を重ね、作成した。その後、随時更新を重ね、H21 に全戸配付した。マップは観光協会や市役所などで無償で配布している。

■問い合わせ：旭川市役所総合政策部まちづくり推進課

TEL: 0166-25-5316 URL: <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/machizukuri/busmap/busmap.htm>



○2 バス停の植栽管理、周辺清掃を実施（北海道 札幌市）

■交通機関：路線バス

■実施場所：区内住宅団地バス停周辺

■実施窓口：住民組織など

■実施時期：H17～（整備及び設置は H19 年度で終了）

■実施内容：老朽化したバス待合所の改修や周辺の緑化などを進めるため、住民やバス事業者、行政によるワークショップを開催し、改善の方向性と役割分担を協議。その結果、平成 17 年度から 19 年度の 3 ヶ年で、3 地点（6 箇所）のバス停について、区が待合所周辺整備、事業者が待合所設置を行い、現在も住民が植花・清掃活動を継続的に実施している。

■問い合わせ：札幌市清田区役所地域振興課

TEL: 011-889-2400 URL: <http://www.city.sapporo.jp/kiyota/town/plan/2007/index2.html>

〔地域住民によるバス停周辺環境整備〕



○3 住民が回数券を自主的に購入し運行費用を負担（青森県 鯉ヶ沢町）

■交通機関：路線バス

■実施場所：鯉ヶ沢町深谷地区

■実施窓口：住民

■実施時期：H5～

■実施内容：当地区は、町の中心部から約 20km 離れており、路線バスの運行が切望されていたが、採算性から実現できなかったため、住民が回数券を購入、運行費用の一部を負担（現在は 2 千円/月・約 60 世帯が加盟）することで運行された。現在も、高齢者の通院利用が多く、運行は継続されている。

■問い合わせ：弘南バス(株)鯉ヶ沢営業所

TEL: 0173-72-3131 URL: <http://konanbus.com/>



写真：国土交通省資料

○4 交通事業者・商業施設共同運行、商店割引（青森県 八戸市）

- 交通機関：路線バス
- 実施場所：車内
- 実施窓口：商業施設
- 実施時期：H19～
- 実施内容：当バスでは、NPOやショッピングセンターの協力を得て、団地とショッピングセンターを結ぶ路線において、バス利用者へのショッピングセンター割引が実施されている。
割引チケットは、バスの運賃箱横に留置しおり、多くの乗客に利用されている。
- 問い合わせ：南部バス(株)八戸営業所
TEL: 0178-44-7111
URL: <http://www.nanbubus.co.jp/routebus/chicket.html#rapiado>

岬台団地⇄ラピア・ピアドゥ線
～環境とおさいふにやさしいバス～

得とくチケット

- この券で、ラピアとピアドゥの提携店で所定の割引・サービスを受けることが出来ます。
(提携店・割引・サービス等別紙チラシに掲載しております。)
- ご利用の際は、必ず精算前にご提示ください。精算後のご提示は無効となります。
- この券の有効期限は下記の押印された日限りです。

南部バス・ラピア・ピアドゥ
NPO法人青森県環境パートナーシップセンター
八戸マイバス検討委員会

※地味にやさしい紙を使用しています

写真：国土交通省資料

○5 町内の医院や商店主体で運行、バス停を提供（青森県 五戸町）

- 交通機関：コミバス
- 実施場所：五戸町
- 実施窓口：町民組織
- 実施時期：H16～
- 実施内容：通院患者の利便性向上と商店街活性化を目的とし、町内の開業医や薬局経営者からなる五戸町循環バス運営委員会が出資、南部バス(株)のマイクロバスをチャーターして運行。南部バス(株)は、小学校スクール運行の空き時間（9～13時0）を利用、低廉な料金で運行している。
- 問い合わせ：南部バス(株)五戸営業所
TEL: 0178-62-3211



○6 キップに企業広告を入れる取り組み（秋田県 北秋田市）

- 交通機関：民間鉄道
- 実施場所：－
- 実施窓口：交通事業者
- 実施時期：H22.1～
- 実施内容：同社では、全国でも珍しい切符に企業広告を掲載する取り組みを実施。対面販売する際に駅員が企業を一言アピールするサービス付き。乗車後も回収しないため、記念に持ち帰る乗客の手元でPR効果が続くメリットもある。
掲載数や期間は、切符3種類に4ヶ月単位で設定している。
- 問い合わせ：秋田内陸縦貫鉄道(株)
TEL: 0186-82-3231
URL: http://www.akita-nairiku.com/doc/2010ticket_ad.pdf

 **内陸線!** 全国初の企画!

ホリデーフリーでPR「切符広告」を出しませんか。

★大手鉄道ではマネできない、斬新な企画
★「切符」に貴方の会社の「広告」を印刷して販売します。



○7 地下鉄駅周辺の公共施設および商業施設で実施（宮城県 仙台市）

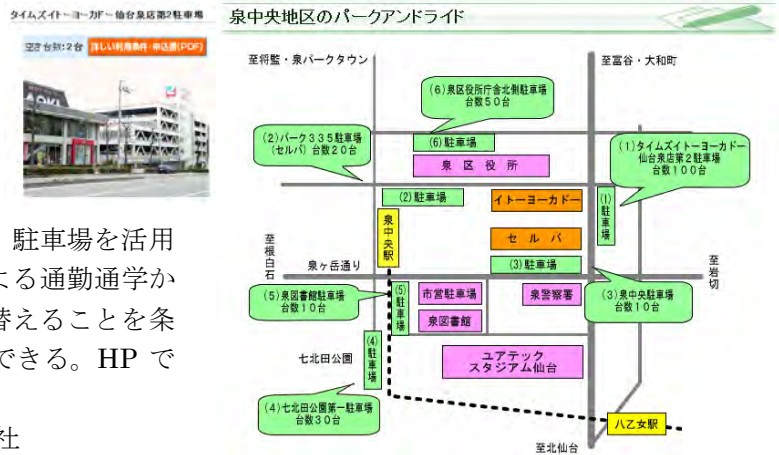
- 交通機関：公営地下鉄
- 実施場所：近隣の公共施設及び商業施設
- 実施窓口：関連財団法人
- 実施時期：H15.11～

■実施内容：同市営地下鉄では、公共施設および商業施設（ショッピングセンター）駐車場を活用し、パーク&ライドを実施。自家用車による通勤通学から地下鉄通勤通学（定期券利用）に切り替えることを条件として、月額 5,000 円で駐車場を利用できる。HP ではリアルタイムで空き情報を確認できる。

■問い合わせ：（財）仙台市交通事業振興公社

TEL: 022-712-8335

URL: <http://www.kotsu.city.sendai.jp/parkride/index.html>



○8 交通事業者が不便地区に独自運行（宮城県 仙台市）

- 交通機関：コミバス
- 実施場所：仙台市内
- 実施窓口：交通事業者
- 実施時期：H12～
- 実施内容：同地区を運行する循環バス「ながましくん」は、バス事業者による営業運行が実施されている。事業者は計画段階から地域の町会長との協議を通じ、地域に働きかけながら運行を継続している。当初、100 円ワンコインバスであったが、現在は運行方法を見直され、150 円となっている。

■問い合わせ：宮城交通(株)仙台営業所

TEL: 022-243-2131

URL: <http://www.miyakou.co.jp/bus/route/nagamachi/index.html>



○9 市民・企業よりバスエコサポーターを募り運行をサポート（栃木県 佐野市）

- 交通機関：コミバス等
- 実施場所：佐野市内
- 実施窓口：協議会
- 実施時期：H20～
- 実施内容：同市では地域の公共交通の活性化・再生と環境問題への貢献を目指し、佐野市バス・エコ・サポーターズクラブを発足。個人会員（中学生以上）になると、土日祝日・市営バスが乗り放題等の特典がある。

■問い合わせ：佐野市役所交通生活課

TEL: 0283-61-1159

URL: <http://www.city.sano.lg.jp/komoku/koutuu/index.html>

平成21年度 佐野市バス・エコ・サポーターズクラブ 入会案内

佐野市では地域の公共交通の活性化・再生と環境問題への貢献を目指します！

- ・地域の生活の足であるバス交通の維持と利用しやすい環境の整備に努めます。
- ・（佐野市では、利用者の減少により、バス路線の維持が難しい状況となっています。
- ・佐野市バス・エコ・サポーターズクラブの発足により、バス交通の維持と利用しやすい環境の整備に努めます。
- ・クルマの利用を控え、自動車排出ガスや二酸化炭素を削減して、地球温暖化防止に貢献します。
- ・クルマを「かしく利用するライフスタイル」に転換していき、子どもから高齢者まで安心安全に暮らせるまちづくりに貢献します。

以上の趣旨に賛同いただける方を募集し、佐野市バス・エコ・サポーターズクラブを発足します。

みんながバスを「環境にやさしく」利用して、住みやすいまちをつくりましょう！

個人会員（中学1年生以上の方） 年会費：5,000円
子ども会員（小学6年生以下の方） 年会費：3,000円
法人会員 年会費：10,000円

☆会費の有効期限：入会した日の属する月の1日から1年間 ※会費の更新手続きは毎年行なってください！
☆入会時に65歳以上の方で、運転免許を全部返納した場合、運転経歴証明書等を提示した方は、年会費無料！
翌年からは、運転経歴証明書等の提示により、年会費3,000円になります。（※詳しくは別紙を参照ください。）

個人会員 平日・乗車料金が無料 ※1日乗車券が500円で購入できます
土日祝日・市営バスが乗り放題！（以上、会員登録時参加者のみ）
その他 定額乗入の際に、1割引！（会員本人のみ）
子ども会員 平日・休日問わず市営バスが乗り放題！
法人会員 佐野市HP（バスのページ）やチラシに協力企業名を掲載します

他にも特典を随分！

○10 年末買い物渋滞用にP&R駐車場を提供（茨城県 ひたちなか市）

■交通機関：民間鉄道

■実施場所：市内観光地

■実施窓口：交通事業者

■実施時期：H21.12

■実施内容：地域の観光地「那珂湊おさかな市場」では、年末など道路が大変込み合うことから、最寄り駅にてパーク&ライド用駐車場を無料で提供し、割引運賃切符を販売し、鉄道利用を呼びかけている。

■問い合わせ：ひたちなか海浜鉄道(株)

TEL: 029-262-2361

URL: http://www.hitachinaka-rail.co.jp/htdocs/index.php?action=pages_view_main&page_id=13



○11 サイクルトレインを毎日可能に（埼玉県 秩父市）

■交通機関：民間鉄道

■実施場所：車内

■実施窓口：交通事業者

■実施時期：H21.12～

■実施内容：地域の公共交通ならびに自転車利用促進を目的に、「サイクルトレイン」試験運行、好評であったことから、H22.3より、「サイクルトレイン」の本格運行を開始することになった。

■問い合わせ：秩父鉄道(株)

TEL: 048-523-3311

URL: <http://www.chichibu-railway.co.jp/info/2010/03/100302-3.html>



○12 会員制度、乗車券割引、加盟店割引など実施（福井県 福井市他）

■交通機関：民間鉄道

■実施場所：福井市内ほか

■実施窓口：えちてつサポーターズクラブ事務局

■実施時期：H17～

■実施内容：当地域では、サポーターズクラブ（定期券利用者は年会費免除）を組織し、会員へ普通乗車券1割引（65歳以上のゴールド会員は2割引）、加盟店での割引サービス、会報誌の配布等を実施している。運営には鉄道事業者と沿線自治体も協力している。

■問い合わせ：えちぜん鉄道(株)

TEL: 0776-52-8888

URL: http://www.echizen-tetudo.co.jp/02-info/0501-supporterclub/0501-supporter_club.html

鉄道を次世代に残していこう！という思いのもと発足した、えちぜん鉄道のサポーターズクラブ

次世代につなげていきたい！
えちてつ
サポーターズクラブ
会員募集



22年度会員証

- えちぜん鉄道利用促進協議会
- えちぜん鉄道沿線サポーター団体連絡会
- えちぜん鉄道株式会社

■会員証の有効期間 3月1日～翌年3月31日(1年ごとの更新になります)

■年会費(定期乗車券ご利用の方は年会費免除)

個人会員 1,000円/人

ゴールド会員 1,000円/人

(65歳以上の方対象です。手続きには年齢確認のできる身分証明書(写し可)が必要となります。)

ファミリー会員 500円/人(個人会員の同居家族)



○13 大規模工場が主体に通勤MMを実施（京都府 宇治市）

- 交通機関：路線バス
- 実施場所：宇治市内
- 実施窓口：推進会議
- 実施時期：H17～
- 実施内容：地元企業、交通事業者、NPO、商工会議所、行政らが協働し、MMを実施。事業所毎に公共交通情報を一元化した質の高いマップを作成し、大きな成果が得られた。



■問い合わせ：京都府建設交通部交通政策課

TEL: 075-411-5000 URL: http://www.pref.kyoto.jp/tdm/est_model3-1.html

○14 車内美術館を開催「石坂線みんなで文化祭 2009～日本で一番細長い美術館～」 （滋賀県 大津市）

- 交通機関：民間鉄道
- 実施場所：車内
- 実施窓口：市民組織
- 実施時期：H21.11
- 実施内容：大津の京阪電車を愛する会が主催し、さまざまな団体が参加するアート展を開催、美術作品の車体外側へのラッピングや車内にも作品を展示。



■問い合わせ：大津の京阪電車を愛する会

TEL: 077-528-2736

URL: <http://www10.ocn.ne.jp/~ok-love/>

○15 車内で地元特産品を販売する「楽市楽電」運行（島根県 出雲市）

- 交通機関：民間鉄道
- 実施場所：車内
- 実施窓口：交通事業者
- 実施時期：H21.12～
- 実施内容：車内で地元特産品などを販売する「市場の電車」が「楽市楽電」と名称を改め、月1回の定期運行を開始。「楽市楽電」は2両編成の臨時電車、片側のロングシートにテーブルを設置し、地元業者が特産品をはじめ、野菜、漬物、ケーキなどを販売。



■問い合わせ：一畑電車(株)運輸営業部営業課

TEL: 0853-62-3383 URL: <http://www.ichibata.co.jp/railway/>

○16 利用増加策を住民主体の検討会で実施（広島県 広島市）

- 交通機関：乗合タクシー
- 実施場所：地区内
- 実施窓口：交通事業者
- 実施時期：H15～
- 実施内容：住民主導で導入された乗合タクシーを、地域代表や事業者らによる検討委員会により、運行経路やダイヤを見直し、かつ割引制度や商業施設との連携によるサービスを提供、運行している。

■問い合わせ：広島市道路交通局都市交通部
交通対策担当

TEL: 082-504-2604

URL: <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/00000000000000/1153716944654/index.html>



○17 導入済み IC カードを電子マネー化し商店街ポイント制度を開始（香川県 高松市）

- 交通機関：民間鉄道
- 実施場所：高松市内
- 実施窓口：商店街
- 実施時期：H17.2.2～ 鉄道バス共通の IC カード導入
H20.2.1 ご利用分～ 電子マネーポイントサービス開始
- 実施内容：当事業者の IC カードは、市内の商店街等で使える電子マネー化をはかり、かつ加盟商店街でのお買い物 100 円ごとに 1 ポイント付加されるポイント制度を開始した。獲得したポイントは買い物や公共交通利用の使用でき、公共交通機関の利用を促進している

■問い合わせ：高松琴平電気鉄道(株)

TEL: 087-863-7721

URL: <http://www.kotoden.co.jp/publichtm/iruca/iruca-top.htm>



■ポイント概要

- サービス開始日 平成20年2月1日のお買い物ご利用分から
- ポイントの対象 IruCaでのお買い物利用（すべてのIruCa加盟店および、IruCa自動販売機）※お手持のIruCa全店舗 IruCa加盟店を全てご利用できます。※電車・バス利用はIruCaポイントの対象ではありません。
- ポイント内容 お買い物ご利用金額100円に対して1ポイント（1円）※ポイントは毎月1日から月末まで有効です。有効日に消費されます。（有効は切替えます）※キャンペーン等では別途ポイントが上乗せされる場合があります。（例：ポイント倍率）
- ポイントの獲得 ことんIruCa窓口、バス案内所等にもと駅に設置している自動チャージ機での利用履歴印刷で確認できます。
- 電子マネーへの交換 ことんIruCa窓口、バス案内所等でもIruCaにチャージできます。
- ポイントの有効期限 お買い物の最終利用日から2年間です。

○18 つり革オーナー制度で鉄道への愛着心（福岡県 福岡市）

- 交通機関：民間鉄道
- 実施場所：列車車両内
- 実施窓口：交通事業者
- 実施時期：H20.4～
- 実施内容：交通事業者がイメージキャラクターをデザインしたつり革にメッセージを書き込み、1年間オーナーとなってもらう「つり革オーナー」を実施。元々、事業者の経営改善の一環として始められたが、鉄道への愛着等から人気を呼び、会費は1本5,000円となっているが、概ね完売状態となっている。

■問い合わせ：平成筑豊鉄道(株)

TEL: 0947-22-1000 URL: <http://www.heichiku.net/>



6. (参考)管内民間サポート事例データ

管内自治体より収集した『公共交通の利用促進に向けた民間サポート事例』データを以下に整理しました。

表 6-1 管内民間サポート事例の収集状況

			第1回答結果（事例有り）								第2回答結果										
都道府県	NO	市区町村	清掃、維持管理	バス停等敷地提供	パーク&ライド	案内マップ	MM・ノーマイカード	買い物で無料券	乗車券販売	その他	NO	市区町村	清掃、維持管理	バス停等敷地提供	パーク&ライド	案内マップ	MM・ノーマイカード	買い物で無料券	乗車券販売	その他	
新潟県	1	新潟市			○	○					1	新潟市									
	2	長岡市	○					○			2	長岡市	●						●		
	3	三条市	○								3	三条市									
	4	柏崎市							○		4	柏崎市									
	5	新発田市	○	○				○	○		5	新発田市	●	●					●	●	
	6	見附市	○								6	見附市									
	7	糸魚川市	○								7	糸魚川市									
	8	妙高市	○								8	妙高市									
	9	五泉市	○	○							9	五泉市	●	●							
	10	佐渡市				○				○	10	佐渡市				●					
	11	魚沼市	○	○							11	魚沼市									
	12	胎内市								○	12	胎内市								●	
	13	湯沢町	○								13	湯沢町									
長野県	14	上田市	○		○				○	○	14	上田市	●		●					●	●
	15	飯田市							○		15	飯田市									
	16	小諸市	○								16	小諸市									
	17	駒ヶ根市						○			17	駒ヶ根市									
	18	茅野市		○			○				18	茅野市					●				
	19	東御市	○								19	東御市									
	20	安曇野市						○			20	安曇野市									
	21	川上村	○								21	川上村									
	22	南牧村								○	22	南牧村									
	23	佐久穂町	○							○	23	佐久穂町	●								
	24	立科町		○							24	立科町		●							
	25	青木村								○	25	青木村									
	26	長和町	○								26	長和町									
	27	阿南町		○							27	阿南町		●							
	28	上松町	○								28	上松町									
	29	木祖村								○	29	木祖村									
	30	大桑村	○	○							30	大桑村	●								
31	木曽町	○				○				31	木曽町	●									
32	麻績村								○	32	麻績村										
33	松川村	○			○					33	松川村										
34	野沢温泉村	○	○							34	野沢温泉村										
35	信濃町		○							35	信濃町										
富山県	36	富山市	○	○		○		○	○	○	36	富山市				●			●	●	●
	37	高岡市					○	○		○	37	高岡市							●		
	38	魚津市	○	○					○	○	38	魚津市	●	●						●	●
	39	滑川市		○							39	滑川市									
	40	黒部市					○		○		40	黒部市								●	
石川県	41	射水市	○								41	射水市	●								
	42	金沢市				○		○			42	金沢市							●		
	43	珠洲市	○								43	珠洲市	●								
	44	加賀市		○					○		44	加賀市		●						●	
	45	白山市	○								45	白山市									
	46	内灘町		○			○		○		46	内灘町		●							
	47	穴水町		○							47	穴水町									
	48	能登町	○								48	能登町	●								

6-1 実施されている民間サポート事例（1次アンケート結果）

実施されている民間サポート事例として、下記が挙げられました。

実施されている民間サポート事例

1. 新潟市（人口:809,796人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商業施設	パーク&ライド	路線バス (新潟交通)	イオン新潟南ショッピングセンター	平成21年度～	施設内の駐車場の一部（約30台分）を、P&R駐車場スペースとして提供。
2	住民(町内会)	案内マップ	鉄道バス共通 (JR東日本) (新潟交通)	にいがた環境交通研究会	平成20年度作成	市内全域の都市交通マップの作成

2. 長岡市（人口:279,058人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス (越後交通)	町内会等	—	- 町内会等が、長岡市バス待合所設置事業補助金交付要綱(H9.4.1施行、補助率1/3、上限50万円)を活用し、町内会等がバス待合所を設置している。 - 町内会等が設置したバス待合所は勿論のこと、市が設置したバス待合所についても、町内会等が日常的な清掃、積雪時の雪かきについて実施している。
2	商店街	買い物で無料券	路線バス (越後交通)	長岡市商店街連合会加盟店	平成8年3月29日 (本格実施)	加盟店が2,000円以上のお買物で170円のバス回数券を進呈し、回数券は、長岡市商店街連合会が越後交通から一括して購入し、加盟店の求めに応じて販売している。

3. 三条市（人口:102,273人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス (越後交通)	地域住民	不明	バスの待ちにおける降雨・雪からの利用者へ配慮として、バス停脇に簡易な待合所を交通事業者と地元の負担により設置（設置時期不明）その後の管理については、地元ボランティアが行っている。（継続年数不明）

4. 柏崎市 (人口:92,431 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	乗車券販売	乗合タクシー	米山地区コミュニティ振興協議会	平成21年4月1日から	協議会で回数券を発行し地区住民に販売。 コミュニティセンターで乗合予約受付業務を実施。 コミュニティセンターだよりで乗合タクシーを紹介。 ホームページで乗合タクシーを紹介。

5. 新発田市 (人口:102,296 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理 バス停等敷地提供	コミュニティバス (市町村運営有償運送)	2つの自治会	平成18年10月より	自治会の負担でバス待合所を設置し、日常の清掃管理を行っている。
2	ボランティア組織	乗車券販売	コミュニティバス (市町村運営有償運送)	NPO法人七葉 (運行委託先)	平成18年10月より	地元住民からNPO法人の賛助会員を募り、その会費でバス回数券を購入して会員に提供し、バスの利用拡大を図っている。
3	商業施設	バス停等敷地提供 買い物で無料券	市街地循環バス (運行主体:新発田市、委託先:新潟交通観光バス(株))	イオンリテール (株)イオン新発田ショッピングセンター	平成18年11月より	バス利用者に回数券を提供し、バスの利用促進を図っている。平成21年度から設置された店舗脇バス停に、利用者からの要望により待合所を設置した。

6. 見附市 (人口:41,873 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス (越後交通)	町内会	不明(バス停上屋設置時)	住民により定期的に清掃、積雪時の雪かきが実施されている。

7. 糸魚川市 (人口:47,919 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	地区自治会等	清掃、維持管理	路線バス (糸魚川バス)	各地区自治会等	待合所設置時から	市内バス停の待合所では、各地区自治会や老人クラブ等が清掃や修繕等の維持管理を実施

8. 妙高市（人口:36,143 人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民（町内会）	清掃、維持管理	路線バス（頸南バス）	小出雲長寿親睦会（小出雲老人会）	不明	バス停の待合所において、住民により、清掃が実施されている。

9. 五泉市（人口:55,094 人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	病院・福祉施設	バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	南部郷総合病院	平成20年10月よりスタート	南部郷総合病院入口バス停において、病院より駐車場の一部を無料で借用し、そこに待合所を設置している。
2	住民（町内会）	清掃、維持管理 バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	長橋町内会	平成20年10月よりスタート（設置時期は不明）	羽黒神社前バス停及び長橋バス停において、住民により待合所が設置され、自主的に維持管理が実施されている。
3	住民（町内会）	清掃、維持管理 バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	中名沢町内会	平成20年10月よりスタート（設置時期は不明）	中名沢バス停及び竜耕寺バス停において、住民により待合所が設置され、自主的に維持管理が実施されている。
4	住民（町内会）	バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	別所町内会	平成20年10月よりスタート	別所バス停において、町内会より公民館敷地の一部を無料で借用し、そこに待合所を設置している。
5	住民（町内会）	清掃、維持管理 バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	下戸倉町内会	平成20年10月よりスタート（設置時期は不明）	下戸倉バス停において、住民により待合所が設置され、自主的に維持管理が実施されている。
6	住民（町内会）	清掃、維持管理 バス停等敷地提供	五泉市コミュニティバス	上戸倉町内会	平成20年10月よりスタート（設置時期は不明）	戸倉コミュニティ会館前バス停において、住民により待合所が設置され、自主的に維持管理が実施されている。

10. 佐渡市（人口:63,516 人）

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他（祭り実行委員会）	その他	佐渡航路カーフェリー	祭り実行委員会（事務局：佐渡観光協会 相川支部）	平成20年6月よりスタート	島のイベント（宵の舞、鉦山祭り）のPRと航路の賑わいの演出のため、佐渡航路カーフェリーの船内で郷土芸能（相川音頭、佐渡おけさ）を披露。
2	その他（MIJインターナショナル）	案内マップ	路線バス（新潟交通佐渡株）	通訳案内士（観光案内職）	平成13年4月よりスタート	通訳案内士の方が2002年サッカーワールドカップで佐渡ヶ島にも外国人を誘客したいと英語の観光マップ（バス路線入り）を作成したのがきっかけ。以後、英語版バス時刻表、英語版ガイドブック、ホームページ上での英文情報提供等、外国人のニーズに合わせて毎年、更新デザイン費用は無料、印刷費用のみ企業負担で作成、外国人誘客に努めており、好評を得ている。

11. 魚沼市 (人口:41,639 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス	市内の自治会(町内会)	不明	バス停の待合所は、希望する自治会が補助制度を活用しながら設置することとしており、設置後の維持管理も各自治会が行っている。平成 16 年の合併前から、多くの待合所がこのような方式としているため、開始時期は不明である。 【補助制度】 バス事業者補助額：2～20 万円 魚沼市補助額：補助対象経費の 1/3 で上限 30 万円 ・この補助残を自治会が負担する。 ・建設用地は、民地であれば自治会負担、道路敷地内であれば市が道路占用許可を得ることとしている。 ・日常の清掃、雪下ろし、修繕等は自治会が実施する。
2	住民(町内会)・商店街	バス停等敷地提供	路線バス	市内中心部の自治会(町内会)又は商店街	不明	市内中心部の商店街にはアーケードや雁木が整備されており、その一角をバス停や待合所として提供してもらっている。ベンチを設置しているバス停もある。

12. 胎内市 (人口:31,686 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	乗車券販売	デマンドタクシー	桃崎浜区事務所、荒井浜区事務所	平成 21 年 3 月 25 日スタート	桃崎浜集落および荒井浜集落では、平成 21 年 4 月 1 日から運行開始したデマンドタクシーの回数券を、各区事務所がまとめて購入し、住民への販売を継続的に実施している。
2	事業所、商店街、観光施設	乗車券販売	デマンドタクシー	市内の事業所、商店街、観光施設	平成 21 年 3 月 25 日スタート	平成 21 年 4 月 1 日から運行開始したデマンドタクシーの回数券を、市内約 60 ヶ所の事業所、商店街、観光施設がまとめて購入し、住民等への販売を継続的に実施している。

13. 湯沢町 (人口:8,380 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	町内自治会	清掃、維持管理	路線バス	町内自治会及び停留所近所の方	冬期間	冬期間の積雪時のバス停留所の雪かきの実施

14. 上田市 (人口:160,643 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	乗車券販売	鉄道(上田電鉄「別所線」)	別所線電車存続期成同盟会(別所線沿線自治会等で構成)	昭和 62 年～	別所線の利用促進を図るため、通常運賃よりも 15%割引の「自治会回数券」の販売斡旋を年 2 回行っている。斡旋方法は、市広報の配布にあわせて、市内全世帯に販売のお知らせを回覧し、別所線沿線の世帯には購入申込書の配布を行っている。
2	住民(町内会)	その他	鉄道(上田電鉄「別所線」)	別所線電車存続期成同盟会	平成 15 年 7 月～	放置自転車を整備し、別所線 4 駅(現在は 2 駅)でレンタサイクルの貸し出しを行っている。
3	住民(町内会)	その他	鉄道(上田電鉄「別所線」)	別所線電車存続期成同盟会	平成 15 年～	別所線の魅力を再発見してもらうため、別所線撮影会を実施。参加費用には別所線往復運賃を組み込み、電車で移動しながら写真家の指導を受け撮影を行い、後日、作品を募集し写真コンテストを行っている。入賞作品は別所線時刻表や P R チラシ等に使用。
4	住民(町内会)	パーク & ライド	鉄道(上田電鉄「別所線」)	個人	平成 17 年 8 月～	別所線利用促進のため、パーク & ライド駐車場を整備するに当たり、市に対して土地の無償貸与をいただいている
5	ボランティア組織	清掃、維持管理	鉄道(上田電鉄「別所線」)	別所線の将来を考える会	平成 21 年 5 月～	月 1 回、別所線 2 駅程度を目安に、駅の除草や清掃活動を行っている。
6	その他	その他	鉄道(上田電鉄「別所線」)	湯けむりカラオケ大会実行委員会	平成 19 年～(年 1 回開催)	別所温泉駅近隣の公共入浴施設において、カラオケ大会を実施。参加費用には別所線往復運賃(参加チケットは往復切符付)を組み込み、別所線利用促進を図っている。

15. 飯田市 (人口:105,945 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	乗車券販売	市民バス三穂線(飯田市が信南交通(株)に委託)	三穂まちづくり委員会	年間を通じて	まちづくり委員会から地域住民に市民バスの利用促進スタンプ券を配布し、1 乗車ごとに運転手に押印してもらう。スタンプがたまったら自治振興センターで 1 乗車につき 100 円を払い戻す。費用はまちづくり委員会の予算の中から支出する。

16. 小諸市 (人口:44,904 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民（町内会）・ボランティア組織・事業所	清掃、維持管理	鉄道（しなの鉄道）	市民ボランティア、市内事業所ボランティア、ボランティア団体	毎年 11 月中旬	駅構内の清掃（駅トイレ含む）
2	住民（町内会）	清掃、維持管理	鉄道（JR 小海線）	地元育成会	把握していないがときどき	駅構内の清掃（駅トイレ含む）
2	住民（町内会）	清掃、維持管理	鉄道（JR 小海線）	地元自治会	週 1 回早朝	駅構内の清掃（駅トイレ含む）

17. 駒ヶ根市 (人口:34,257 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商店街	買い物で無料券	コミュニティバス	商店街	不明	一定の買い物金額と引き換えに無料乗車券を提供している。

18. 茅野市 (人口:57,231 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他（市、社会福祉協議会）	バス停等敷地提供	路線バス、福祉バス	設置者：市、管理者：茅野市社会福祉協議会	平成 14 年 4 月から	バスターミナルに隣接する商業ビル内に「どっこいしょ広場」を設け、誰でも自由に、路線バスや福祉バスの時間待ちなど一休みできる場所として開放しています。
2	学校	MM・ノーマーカーデー	路線バス	諏訪東京理科大学	平成 20 年 4 月から	JR 茅野駅－同大学間の路線バスが乗り放題になるバスポート（学生負担 1,000 円）を全学生対象に発行。学生の負担軽減と環境への配慮などが狙い。路線バスの利用促進や維持に貢献している。
3	その他（茅野市役所職員）	MM・ノーマーカーデー	路線バス	茅野市役所	平成 20 年 11 月から	公共交通の再構築後の「利用促進策」を課題と見据え、市役所職員の率先した行動として、マイカー通勤者の自主的な「バス通勤」を実施しています。 （毎週水曜日「ノー残業デー」を「バス通勤」の日とし、最低でも月 1 回の協力をお願いしています。）

19. 東御市 (人口:31,042 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	東御市商工会商店会	清掃、維持管理	デマンド交通とうみレッツ号(各タクシー会社)	東御市商工会商店会会員 他	平成 20 年	デマンド交通利用者に対し、タクシーが来るまでの待ち時間の待合所などの提供。

20. 安曇野市 (人口:96,722 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商店街	買い物で無料券	安曇野市乗り合いタクシー「あづみん」	豊科スタンプ会(代表小林寛明)	平成21年7月から	豊科スタンプ会の「ハートフルカード」で、総額3万円の買い物をすると満点の300ポイントとなり、買い物で500円の割引が受けられる。「あづみん」の利用回数券(11枚つづり・3,000円)を購入するときに、この割引(500円)が受けられるサービス。

21. 川上村 (人口:4,510 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	川上村営バス	川端下地区婦人会	不明	地区内のバス停に設置されている簡易トイレの清掃・バス待合所の清掃。
2	住民(町内会)	清掃、維持管理	川上村営バス	保育園保護者	不明	地区内のバス停待合所の清掃

22. 南牧村 (人口:3,384 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他	その他	—	南牧村社会福祉協議会	—	福祉バス運行 月曜日・水曜日・金曜日 第2木曜日

23. 佐久穂町 (人口:12,394 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他 町商工会	その他	デマンド交通(佐久穂町商工会)	佐久穂町商工会	平成19年4月～	町村合併に伴い、それまで町村で多様化していた公共交通を一本化し、町商工会が主体となって地元タクシー業者に委託して運行している。
2	ボランティア組織	清掃、維持管理	鉄道(JR)	天神町ボランティアグループ	平成19年夏頃～	JR 小海線にハイブリット車両が導入されたことを機会に駅周辺の清掃や花壇の整備等が実施されている。

24. 立科町 (人口:7,893 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商業施設	バス停等敷地提供	(路線バス) たてしなスマイル交通	町内スーパー等(2社)	平成21年 10月1日 スタート	利用者の利便性確保のため、正面入口にバス停を設置し、バスの乗り入れに協力いただいている。またバスを待つ場所としてベンチを設置している。
2	病院・福祉施設	バス停等敷地提供	路線バス たてしなスマイル交通	町内医院(2箇所)	平成21年 10月1日 スタート	利用者の利便性確保のため、正面玄関前までの乗り入れについて協力いただいている。

25. 青木村 (人口:4,680 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	事業所	その他	青木村 営バス	—	平成20年3月～ 会議6回開催 (H21年11月末)	青木村の公共交通を見直しなど検討していく中で、近隣のタクシー・バス会社等の各事業所より、青木村地域公共交通会議の委員として会議に参加していただき、ご意見や改善案などの提案といった、青木村営バスの利用促進のためご協力をいただいております。

26. 長和町 (人口:6,898 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	町巡回バス	バス停近隣者	不明	近隣住民による清掃、花かざり、雪かきが実施されている。
2	住民(町内会)	清掃、維持管理	JRバス	バス停近隣者	平成19年4月 から	バス停待合所として土地、家屋の一角を無償で提供し、利用者に快適性を。

27. 阿南町 (人口:5,604 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	病院・福祉施設	バス停等敷地提供	路線バス・ 町民バス	各病院管理者	平成21年9月、 実証運行開始に 合わせて	医療機関の営業時間よりもバス時刻が早くなる場合があり、施設のロビーを開放して早期到着者の待合所として利用できるように便宜を図ってもらっている。また、バス便数が少ないため、診療時間をバス時刻に合わせるような調整も受診者の互助の精神として理解を求め実施している。

28. 上松町 (人口:5,359 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	上松町コミュニティバス	—	—	待合所の清掃作業 地域の方が不定期で行っている。 実施者、時期等の詳細については不明確、把握していません。 別件の地域の集まりや、何らかの作業の時に合わせて行っていると思われます。

29. 木祖村 (人口:3,182 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他	その他	コミュニティバス	ひまわり号を愛する会 (事務局：村公民館)	年 4～5 回程度	公民館の生涯学習活動の一つとして、平成 19 年度から始まった活動。年に数回、村内の名所旧跡をめぐるハイキングなどを実施。 村民ならだれでも参加でき、参加費用はバス代のみ(運賃は1乗車 100 円のため、往復 200 円)。

30. 大桑村 (人口:4,253 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	個人	清掃、維持管理	バス	大島地区在住	平成 15 年 4 月より	毎朝、9 時～10 時頃に車椅子で清掃をしている。
2	個人	清掃、維持管理	バス	村内停留所	平成 16 年	停留所に座布団を置いている。 冬期間など、バスの待ち時間に停留所を温かくしている。
3	運 行 業 者	バス停等敷地提供	バス	運行业者	運行日	隣接町村との連携と運行业者の提案により、乗継の利用をしやすくしている。 利用者が増加している。

31. 木曽町 (人口:13,034 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	ボランティア組織	清掃、維持管理	コミュニティバス	地域づくり団体	平成 21 年度	地域づくり団体が地元の小学生が描いた絵を、額に収め各バス停へ掲示することで、バスの待ち時間を楽しむものとして地域住民に喜ばれている。
2	住民(町内会)	MM・ノーマイカーダー	コミュニティバス	公民館	平成 19 年度	公民館が主催する遠足・ハイキング等で、バス路線を利用したルート設定を行い、バス利用とウォーキングなどとの連携が図られている。

32. 麻績村 (人口:3,001 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	その他	その他	路線バス (村営)	村外の利用者	平成 21 年 3 月	市町村の境にあるバス停に待合所がなかったため個人がバス停建築にと 10 万円を寄付。その後村設置。

33. 松川村 (人口:10,095 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	ボランティア組織	清掃、維持管理	鉄道 (JR)	信濃松川駅を愛する会	—	村内 3 箇所ある駅周辺の清掃や花壇への定植などを定期的実施されている。
2	ボランティア組織	案内マップ	鉄道 (JR)	信濃松川駅を愛する会	平成 21 年 3 月 17 日	特急あずさの複数停車に向けた署名活動や講演会を行い、利用促進事業の取り組みを行った。

34. 野沢温泉村 (人口:3,965 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	行政バス (のざわ温泉交通) 路線バス (長電バス)	地区住民	冬期	バス停の雪下ろし作業
2	事業所	バス停等敷地提供	行政バス (のざわ温泉交通) 路線バス (長電バス)	行政バス運行业者	通年	待合所として業者経営のゲームセンターの一角を提供している。

35. 信濃町 (人口:9,402 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	事業所	バス停等敷地提供	路線バス (長電バス) (川中島バス)	信越土屋薬局	平成 15 年より	信越病院の前にある薬局でバス停も近くにあることから薬局の一部を待合所として提供している。

36. 富山市 (人口:419,849 人)

N0	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商店街	買い物で無料券	市内電車・鉄道・路線バス (富山地方鉄道(株)) コミュニティバス (まちづくりとやま(株))	まちづくりとやま(株)	—	コミュニティバスと市内電車の車内においてある「共通乗車券引換券」を持ち、「加盟店」で2千円以上の買物をした方に「共通乗車券(100円分)」を提供している。
2	住民(町内会)	清掃、維持管理 乗車券販売 その他	鉄道 (JR西日本高山本線)	鶴坂地区 JR 高山本線 婦中鶴坂駅利用促進協議会	平成20年3月より	臨時駅の設置を機に、地元住民による協議会を立ち上げ様々な利用促進の取り組みを実施している。 駅周辺緑地の草刈りをはじめとして、地域住民への乗車券や定期券の補助、利用促進イベントの実施、駅利用者のための掲示板の設置や駐輪場上屋の設置等、行政に頼らず、協議会主体で取り組んでいる。
3	学校	清掃、維持管理	鉄道 (JR西日本高山本線)	神保地区 各児童会	夏休み	児童会で夏休み期間は千里駅の清掃を実施している。
4	住民(町内会)	清掃、維持管理	鉄道 (JR西日本高山本線)	住民有志	—	ボランティアで駅前の花壇を維持管理している。
5	学校	清掃、維持管理	鉄道 (JR西日本高山本線)	城山中学校 生徒	夏休み	地域ボランティア清掃の一環で、毎年夏休みに駅舎等の清掃を実施している。
6	ボランティア組織	案内マップ	路線バス 運営主体 ・富山市 ・越中八尾観光協会 運行主体 ・富山地方鉄道	坂のまちアート実行委員会	10月上旬	坂のまちアートイベントのパンフレット(会場散策マップ)の中に八尾まちめぐりバスのコースを掲載し、会場の周遊にバスも利用してもらえるよう配慮している。
7	住民(町内会)	清掃、維持管理	呉羽いきいきバス (まちづくり公社呉羽)	住民有志	—	バス停及び乗降場の清掃、維持管理
8	商業施設	バス停等敷地提供	呉羽いきいきバス (まちづくり公社呉羽)	スーパーマーケット	—	店舗の入り口をバス停留所として提供することで、利便性を向上させている。

37. 高岡市 (人口:177,012 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商店街	買い物で無料券	路面電車（万葉線）路線バス コミュニティバス（加越能鉄道）	高岡市商店街連盟	平成 13 年 9 月から開始	路面電車、路線バス、コミュニティバスを利用して来店したお客が 2,000 円買い物したら、共通乗車券 100 円を進呈している。
2	商業施設・集客施設	買い物で無料券 その他	路面電車（万葉線）	万葉線沿線の各お店	各お店により異なる	万葉線を利用して来店したお客や、万葉線の支援団体（万葉線を愛する会）の会員に対して、飲食店やホテル、スーパー銭湯等で、飲食代割引等のサービスや、帰りの乗車券の提供などをおこなっている。
3	事業所	MM・ノーマイカーデー	全ての公共交通機関	各事業所（主催は高岡市公共交通利用促進協議会）	平成 14 年 10 月から開始	ノーマイカーデー宣言をした事業所が、4 月と 10 月に実施している「市民統一ノーマイカーデー」に参加している。
4	商業施設	その他	路線バス（加越能鉄道）	TOHO シネマズ高岡	平成 15 年ごろから開始	バスを利用して来店した方は、映画館の入場料が中学生以上 200 円、小学生以下 100 円が割引される。

38. 魚津市 (人口:45,354 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民（町内会）	清掃、維持管理	富山地方鉄道	経田地区振興協議会	平成 21 年 11 月 14、15、23 日	老朽化した駅舎のペンキ塗り及び清掃を実施した。
2	住民（町内会）・商店街	清掃、維持管理	富山地方鉄道	新宿商店街 新宿地区町内会	平成 21 年 夏～	夜間無人駅となる電鉄魚津駅への巡回を実施し、安心・安全な駅であるようサポートしている。
3	商業施設	バス停等敷地提供	魚津市民バス（魚津市）	㈱魚津興産	平成 15 年ごろ	施設の一角をバス停や待合所として提供している。
4	住民（町内会）・その他 魚津市民バスの運行を委託している NPO 法人	乗車券販売	魚津市民バス（魚津市）	各魚津市民バス 運行委託 NPO 法人	平成 18 年 10 月～	NPO 法人が主体となって各地区住民へ回数券の購入等の協力依頼を行っている。
5	商店街・その他 実行委員会	その他	JR 及び富山地方鉄道	イルミラージュ UOZU 実行委員会 新宿商店街	平成 3 年からの 12 月ごろ～ 平成 21 年 12 月 12、13 日のみ	駅前にイルミネーションを点灯し、魚津市の玄関口を彩り、公共交通を利用しやすい環境づくりを行っている。

39. 滑川市 (人口:33,626 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	事業所	バス停等敷地提供	滑川市 コミュニティバスの my Car (滑川市地域公共交通会議)	同地内菓子店「アリカネ」	平成 19 年 6 月～	同菓子店の敷地内にベンチを設置し、最寄りのバス停「上小泉東」の待合所として提供。

40. 黒部市 (人口:42,262 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	黒部まちづくり協議会	乗車券販売	鉄道(富山地方鉄道)	黒部まちづくり協議会	4 月～5 月、9 月～11 月	1 日 500 円乗り放題切符の販売を通じて、沿線まち歩き、サイクリング、スタンプラリー、駅舎ペインティングを実施し、この秋の成果として実施期間 21 日、販売枚数 2,319 枚、イベント参加総数 1195 人を数え、地鉄の利用促進と沿線の活性化に成果を上げている。
2	黒部市役所	MM・ノーマイカーデー	鉄道(富山地方鉄道)	黒部市役所職員	通年検討中	黒部庁舎(東三日市駅)と宇奈月庁舎(愛本駅)間の移動を鉄道を利用することを奨励。利用者には乗車券を交付。

41. 射水市 (人口:94,331 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	コミュニティバス	戸破地域振興会	平成 21 年度当初	本市においては、平成 22 年度に地域公共交通総合連携計画を策定する予定ですので、今回収集される民間サポート事例について活用させていただきたいと考えております。
2	住民(町内会)	清掃、維持管理	コミュニティバス	ふたくち地域振興会	平成 21 年度当初	・待合所の清掃・降雪時の除雪・異常時の市への通報
3	住民(町内会)	清掃、維持管理	コミュニティバス	下地区まちづくり地域振興会	平成 21 年度当初	・待合所の清掃・降雪時の除雪・異常時の市への通報
4	住民(町内会)	清掃、維持管理	コミュニティバス	個人	平成 21 年 9 月	歩道がなく道路幅員が極めて狭隘かつ交通量の多い路線上のバス停前になっている自宅前車庫を待合所として提供し、さらにバス停の支柱を撤去してバス停表示板を自宅車庫壁面に設置表示することにより、利用者のバス待機場所と自動車の通行幅員の確保を図り、利用者の便宜と交通の安全を図っている。

42. 金沢市 (人口:455,984 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	商業施設	案内マップ	路線バス (北陸鉄道)	金沢都市圏パーク・アンド・ライドシステム実施協議会 (郊外にあるスーパー、ドラッグストア等)	平成 8 年 11 月より実施	パーク・アンド・ライド駐車場を提供
2	商店街・商業施設	買い物で無料券	路線バス (北陸鉄道)	(株)金沢商業活性化センター (金沢市中心部の商店街等)	平成 19 年 2 月より導入	北陸鉄道のバス(交通 IC カード(ICa)を利用)で来街し、エコポイント加盟店で 2,000 円以上の買い物をすると、エコポイントを 20 ポイント進呈。 ※100 ポイント=100 円運賃に還元

43. 珠洲市 (人口:16,488 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス	一輪会	平成 20 年 10 月 17 日～平成 20 年 12 月 19 日	古くなった倉庫を待合所として利用
2	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス	上戸町区長会	平成 21 年 2 月 2 日～平成 21 年 3 月 13 日	上戸バス停のバス待合所の設置
3	学校	清掃、維持管理	路線バス	石川県立飯田高等学校	通年(1 週間に 1～2 回)	バス停周辺の清掃活動
4	その他	清掃、維持管理	路線バス	珠洲ローターアクトクラブ	平成 21 年 2 月 10 日～平成 21 年 3 月 10 日	バス停留所にベンチを設置

44. 加賀市 (人口:72,894 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)・商業施設	バス停等敷地提供 乗車券販売	乗合タクシー (事業主体:地区住民運行協議会 運行主体:第一交通)	勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会	平成 20 年 3 月よりスタート	住民で組織する運行協議会が事業主体となつて行う乗合タクシーに関して、その乗車回数券の販売を、町内会長や販売推進員が行っている。 勅使・東谷口地区内の商店や農協において乗車回数券の販売を無償で取り扱っている。 乗車地点となっている商店や民間宅等では、その建物の軒先を待合スペースとして無償提供している。

45. 白山市 (人口:110,890 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	鉄道 (JR 西日本)	加賀笠間駅振興協議会	ー	加賀笠間駅周辺及び駅構内において、沿線住民組織による年 1 回の除草活動が実施されている。
2	住民(町内会)	清掃、維持管理	鉄道 (北陸鉄道)	曾谷町内会	ー	夏季間において、曾谷駅ホームに地元町内会が花壇(プランター)を配置し、住民による水やり等を実施している。

46. 内灘町 (人口:26,701 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	病院・福祉施設	バス停等敷地提供	路線バス コミュニティバス	金沢医科大学病院	平成 20 年 2 月 (コミュニティバス運行開始より)	病院敷地内にバス停、待合所として提供している。
2	商業施設	バス停等敷地提供	コミュニティバス	(株)大京	平成 20 年 2 月 (コミュニティバス運行開始より)	商業施設内にバス停、待合所として提供している。
3	商店街	乗車券販売	コミュニティバス	内灘町	平成 20 年 2 月(コミュニティバス運行開始より)	バス車内に広告を掲載。
4	事業所	MM・ノーマイカーデー	路線バス コミュニティバス	内灘町	平成 20 年 4 月	毎月第 1 水曜日をノーマイカーデーとして取り組んでいる。

47. 穴水町 (人口:9,778 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	バス停等敷地提供	路線バス (北鉄奥能登バス(株))	古君自治会	転換バス運行開始時 (平成 17 年)	古君地内バス停において、バスを快適に利用するため自治会が管理する自治消防機材倉庫横に待合所を設置し、清掃及び維持管理を行っている。
2	住民(町内会)	バス停等敷地提供	路線バス (北鉄奥能登バス(株))	個人	平成 21 年 6 月	山中地内バス停において、地域住民が快適にバスを利用するために自己所有地に自ら待合所を設置し、清掃及び維持管理を行っている。

48. 能登町 (人口:20,078 人)

NO	主体	サポート種類	機関	実施者	開始時期	内容
1	住民(町内会)	清掃、維持管理	路線バス	七見町内会ほか	平成 18 年 4 月より スタート	平成 18 年に施行した「能登町バス待合所整備事業費補助金交付要綱」により、各町内が整備したバス待合所において地区住民による清掃・除草など待合所の管理を行っている。

6-2 民間サポート実施の経緯・効果（2次アンケート結果）

民間サポート実施の効果・経緯として、下記が挙げられました。

民間サポート実施の経緯・効果など

※N0は、6-1 1次アンケートに対応している

2. 長岡市（人口:279,058人）

サポート対象	N01 住民（町内会）による清掃、維持管理
サポート実施経緯	（経緯） - 平成9年4月1日：長岡市バス待合所設置事業補助金交付要綱の制定 ※ 目的：バス利用者の利便性と冬期間における安全性と快適性の確保 （内容） - 町内会等が、長岡市バス待合所設置事業補助金交付要綱を活用し、町内会等がバス待合所を設置したバス待合所は、町内会等が日常的な管理（清掃、積雪時の雪かき）を行う。
苦労した点	町内会等が、道路占用許可をとって建築することになるが、直轄国道は、町内会の占用を認めておらず、長岡市が町内会に代わり占用許可をとって町内会が建築し、実質的な管理を行っている。
サポート継続ポイント	特になし。
サポート実施効果	年に3件程度の申請がある。
自治体の支援状況	- バス待合所建設に要する経費に対し、補助率1/3、上限50万円の補助金を交付 - 補助対象経費が150万円を超え、デザインについて考慮していると市長が認めたものに対しては、補助対象経費から150万円を控除した額に3分の2を乗じて得た額を50万円に加算する。ただし、加算額は50万円を限度とする。
その他	特になし。

サポート対象	N02 商店街による買い物で無料券
サポート実施経緯	（内容） - 自動車交通からバス交通への転換による道路交通混雑の緩和と都心地区でのバスの利便性の向上、バスでの買い物機会の増加による都心地区の活性化等の観点から、都心地区での買い物に対して初乗り運賃相当額のバス乗車券を提供する「お買い物バス券」を導入し、バス利用の誘導と都心地区での滞留人口の増進を図る。 （経緯） - 長岡市は、平成7年10月、「総合渋滞対策支援モデル事業」の指定を受け、交通需要マネジメント（TDM）施策の検討に取り組むとともに、平成7年から平成8年にかけて、「都市交通政策策定調査」を実施し、環境問題への対応や、道路交通混雑の緩和の必要性から、都心の中心性を強化し、自動車交通依存からバス交通や徒歩交通へのシフトを図ることについて検討を進めていた。 - 長岡市商店街連合会では、平成7年7月22日から、2,000円以上のお買物で30分の無料駐車券を進呈する「共通駐車券」を実施した。 - 公共交通の利用促進を図るため、バスにも同様の考え方ができないかという発想のもと、平成7年に当時の運輸省新潟運輸局が実施した長岡市都市交通円滑化推進計画（公共交通機関利用促進調査）で「お買い物バス券」を検討対象とし、平成7年12月1日から25日までの間に試行的に実施するとともにアンケート調査を実施した。 - 平成8年4月1日から、長岡市商店街連合会による本格実施が始まった。
苦労した点	- 先進地への視察を行うなど、事業立ち上げ段階での関係者の協力取り付け。 - 本格実施までの商店街連合会、交通事業者の役割調整 ※ 商店街連合会：引換券の印刷、バス事業者から回数券の一括購入、各店舗への回数券販売 - バス事業者：専用の回数券の印刷、商店街連合会への回数券の割安販売 - 初年度（平成8年度）の販売枚数は約41,000枚。平成11年には215,000枚まで増加したが、平成12年2月に当時の「セゾン長岡店」と「大和長岡店」が脱退し、お買い物バス券の需要は大きく減っており、事業自体の存続が厳しい状況になっている。（平成20年度販売実績2,300枚）
サポート継続ポイント	商店街連合会とバス事業者の協力
サポート実施効果	一時、販売数が伸びたが、その効果としてどの程度交通渋滞が解消されたかという検証がなされていない。
自治体の支援状況	現在、長岡市商店街連合会が独自に実施しており、特に市からの支援は行っていない。
その他	特になし。

5. 新発田市 (人口:102,296 人)

サポート対象	N01 住民（町内会）による清掃、維持管理とバス停等敷地提供
サポート実施経緯	民間路線バスに代わり H18. 10 からコミュニティバスが運行開始したことに伴い、従来運行していなかった、集落近くの広域農道に路線を新設したことによる。
苦労した点	地域の活動のため特に把握していない。 民間企業の活動のため特に把握していない。
サポート継続ポイント	地元 NPO 法人が運転を担っていること、スクールバスと一体化していること、バスの利便性が高く利用者が増えていること、地域の足として大切であるという認識が高いことが考えられる。
サポート実施効果	雨雪の中でもバス待ちが楽になったこと、景観に合った木造と手作りの看板によりバスが一層身近な存在になったこと、それらによりバスの利用向上が図られたことが考えられる。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

サポート対象	N02 ボランティア組織による乗車券販売
サポート実施経緯	地域のコミュニティバスの運転を担うため H18. 3 に設立した NPO 法人七葉が、地域でバスを支えるために賛助会員を設けることとし、運行開始前の H18. 6 頃から住民に呼びかけ募集を開始した。
苦労した点	地域の活動のため特に把握していない。
サポート継続ポイント	地元 NPO 法人が運転を担っていること、スクールバスと一体化していること、バスの利便性が高く利用者が増えていること、地域の足として大切であるという認識が高いことが考えられる。
サポート実施効果	会費をバスの運営費に活用することで住民の参加協力意識の醸成が図られたこと、回数券の還元によりバスの利用促進が図られたことが考えられる。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

サポート対象	N03 商業施設によるバス停等敷地提供と買い物で無料券
サポート実施経緯	市街地循環バスの実証運行開始に伴い、それまでイオンが運行していた独自の無料送迎バスを終了したことによる。
苦労した点	民間企業の活動のため特に把握していない。
サポート継続ポイント	当該バス停を利用する買い物客が多いこと、企業の地域貢献の一つとして捉えていることが考えられる。
サポート実施効果	バスの利用向上、回数券の普及、バス待ち環境の改善が図られたことが考えられる。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

9. 五泉市 (人口:55,094 人)

サポート対象	N01 病院・福祉施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	蒲鉄小型バス(株)が平成 20 年 9 月 30 日をもって廃止した 3 路線について、市が路線やダイヤをそのまま引き継ぎ、平成 20 年 10 月 1 日よりコミュニティバスの運行を開始した。バス停や待合所についても、ほぼそのまま引き継いだ。設置当時の経緯は不明。
苦労した点	特になし。
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	効果を検証しているわけではないため、はっきりしたことは分らないが、待合所があることにより、特に悪天候時における利用促進につながっていると思われる。
自治体の支援状況	特に支援はしていない。
その他	特になし

サポート対象	N02, 3, 5, 6 住民(町内会)による清掃、維持管理とバス停等敷地提供
サポート実施経緯	蒲鉄小型バス(株)が平成 20 年 9 月 30 日をもって廃止した 3 路線について、市が路線やダイヤをそのまま引き継ぎ、平成 20 年 10 月 1 日よりコミュニティバスの運行を開始した。バス停や待合所についても、ほぼそのまま引き継いだ。設置当時の経緯は不明。
苦労した点	特になし。
サポート継続ポイント	地元が自分たちのバス停という意識を持って管理している点。
サポート実施効果	過去に各町内が自主的に待合所を設置したということを考えると、地域の参加意識は高いと思われる。効果を検証しているわけではないため、はっきりしたことは分らないが、待合所があることにより、特に悪天候時における利用促進につながっていると思われる。
自治体の支援状況	特に支援はしていない。
その他	特になし

サポート対象	N04 住民(町内会)によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	蒲鉄小型バス(株)が平成 20 年 9 月 30 日をもって廃止した 3 路線について、市が路線やダイヤをそのまま引き継ぎ、平成 20 年 10 月 1 日よりコミュニティバスの運行を開始した。バス停や待合所についても、ほぼそのまま引き継いだ。設置当時の経緯は不明。
苦労した点	特になし
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	効果を検証しているわけではないため、はっきりしたことは分らないが、待合所があることにより、特に悪天候時における利用促進につながっていると思われる。
自治体の支援状況	特に支援はしていない。
その他	特になし

10. 佐渡市 (人口:63,516 人)

サポート対象	N02 民間による案内マップ
サポート実施経緯	ワールドカップ 2002 年の外国人集客を目指して、島内在住の事業者（通訳案内士）が同年に佐渡の英語観光マップを作成した。事業者はこの準備として前年から佐渡を訪れる外国人の動向調査を実施しており、一番多く要望があったのは当事発行されていなかった公共交通機関の英語版の時刻表であった。このためマップの内容には島内の路線バスの経路を色別に表記するとともに、新潟交通佐渡(株)、佐渡汽船にはたらきかけて英語時刻表の発行が始まった。英語マップは当所 2002 年限定で製作したが、好評だったので以後外国人の動向に合わせて毎年更新して発行を継続している。英語マップ制作費は島内の民間業者が広告料として負担し、取りまとめは事業者が行っている。
苦労した点	発案当事は外国人個人客を佐渡に誘客するための情報提供がほとんどなかった。行政側の対応も消極的だった。このため外国人誘客を歓迎していただける観光関連企業などを戸別に訪問して英語マップ発行の参画と負担をお願いしてきている。
サポート継続ポイント	これがないと日本語が分らない外国人観光客が困ることを承知している。佐渡を訪れる外国人たちには良い思いをしていただきたい。良い思いをしていただければ皆さんが自国に帰ったときに宣伝してくれる。実際、最近では外国で発行されている日本を紹介する観光ガイドブックの中で島内の観光案内所には英語の時刻表があると紹介されるようになった。(Lonely Planet など)
サポート実施効果	個人の外国人観光客が観光案内所で尋ねる内容に、島内の路線バスに関する問い合わせ（行き方、経路、時刻、乗り換え等）が多い。この事実は、彼らの移動手段に公共交通機関としての路線バスを拠り所としている実態を裏づけている。観光マップに掲載されているスポンサー企業には広告として集客効果がある。
自治体の支援状況	担当者によって温度差がある。観光政策として支援があっても交通政策としては外国語広報にはあまり積極的ではないような気がする。
その他	新潟までの乗り入れを含め、国内全体として長距離バスに関する外国語情報が少ない。この点について国土交通省の進めるビジット・ジャパン・キャンペーンともっと整合性があれば良いと思う。管轄する行政部署が観光政策と交通政策にまたがる部分も多いが、それぞれがタテワリ的な事務処理や法整備となっているために総括的に相談できる機関がない。

12. 胎内市 (人口:31,686 人)

サポート対象	N02 事業所、商店街、観光施設による乗車券販売
サポート実施経緯	デマンドタクシーは、利用者にとっての利便性の向上、交通空白地域の解消等を目指して導入したが、その他の理由として、回遊性が増すことにより、市内全域で一体的な公共交通サービスが提供でき、あわせて、まちなかの賑わいによる中心市街地の活性化が期待できるのではないかと考えた。 そこで、中心市街地が活性化するためには、事業所や商店街、観光施設等の協力も必要であり、運営を委託する商工会の会員等がデマンドタクシーの回数券を販売することで、商店街等へ人を呼び込み賑わいを作り出すことを狙った。 平成 21 年 2 月上旬：商工会から会員へ回数券取扱店の募集を依頼 平成 21 年 2 月下旬：回数券取扱店の募集を締め切る 平成 21 年 3 月中旬：回数券取扱店一覧を市報に掲載し、周知を図る 平成 21 年 3 月下旬：回数券の販売開始
苦労した点	商工会から回数券取扱店の募集を依頼したが、締め切った時は、なかなか参加してもらえぬ商店等が集まらなかった。しかし、事業の趣旨等を説明していく中で、徐々に参加してもらえぬ商店等が増えていき、現在では、約 60 ヶ所で販売している。
サポート継続ポイント	商工会は、回数券取扱店へ回数券を渡す際、手数料相当分として定価から 5% を差し引いた金額で斡旋している。
サポート実施効果	回数券取扱店の中には、売り上げや来店客が増加したところもあった。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

14. 上田市 (人口:160,643 人)

サポート対象	N01 住民（町内会）による乗車券販売
サポート実施経緯	昭和 62 年開催の別所線電車存続期成同盟会総会で、上田電鉄（当時：上田交通）の経営状況報告を受け、別所線存続のため、通常よりも割引率の高い回数券を別所線沿線自治会を通じて住民に購入の依頼を行って以降、毎年春と秋の年 2 回、販売幹旋の対象区域を拡大しながら継続している。 S62.7 : 別所線電車存続期成同盟会総会において特別回数券共同購入運動実施を決定。 S62.8 : 同盟会会長、自治会連合会長による回数券購入依頼を開始。
苦労した点	事業開始当初は、自治会長が自治会内の購入申込を取りまとめ、上田電鉄に提出していたため、自治会長の負担が大きかったが、現在は別所線有人駅で期間中随時販売を行っているほか、無人駅での出張販売、沿線商店などによる代理販売を行っており、自治会長の負担軽減に加え、住民への購入の利便性も図られている。
サポート継続ポイント	別所線沿線自治会（住民代表）等で構成される別所線電車存続期成同盟会が主体となり、回数券の販売幹旋を行っているため、行政主導で行うより、別所線存続のための事業であることが住民に浸透していると考えられる。
サポート実施効果	地域住民への別所線存続意識が高まったこと、事業の賛同者による協力体制（代理販売等）が整ったことが挙げられる。 また近年では、別所線年間収入の約 1 割を占める 25,000 千円程度の売上げとなり、別所線の運行継続に欠かせない収入源となっている。
自治体の支援状況	市広報の発行とあわせ、全住民に回覧を行っているほか、回数券購入者への特典として、循環バスの無料乗車券 2 枚を付与している。（平成 16 年～平成 19 年までは、市の温泉施設無料入浴券を 2 枚付与。）
その他	特になし

サポート対象	N02 住民（町内会）によるレンタサイクル事業（その他）
サポート実施経緯	観光面から別所線の利用促進を図るため、信州の鎌倉と呼ばれる別所線沿線の寺社等への二次移動手段としてレンタサイクルの貸し出しを行うこととなった。（寺社等の所在は別所線沿線ではあるが、多くが山間部に存在するため、徒歩では時間がかかり、一度に多くを訪れることが困難であることから、移動手段の確保が検討された。） 事業の実施主体は、別所線利用促進を支援する観点から、別所線電車存続期成同盟会が行っている。一時は 4 駅で実施していたが、鍵の貸し出し等管理上の問題から、現在は 2 駅で実施している。 H15.7 ～ 塩田町駅（5 台）、別所温泉駅（5 台）で開始 H16.8 ～ 下之郷駅（3 台）、舞田駅（3 台）でも開始 H19.10 ～ 塩田町駅、舞田駅での利用を終了し、別所温泉駅（5 台）、下之郷駅（5 台）の 2 駅で実施。
苦労した点	レンタサイクルの貸し出しは、当日のみで借りた場所に返却をお願いしているが、他の駅への返却があり、自転車移動の手間が必要となるほか、自転車の維持管理に年間 5 万程度に費用負担が発生する。 また、自転車の管理、鍵の貸し出しをお願いできる方が駅周辺にいないため、貸し出し駅数を減らざるを得なかった。 その他、旅行者から事前予約の申し出があるが、台数が少ないため、当日の受付のみで対応しており、十分なサービス提供ができない状況にある。（十分な駐輪場が確保できない。）
サポート継続ポイント	事業の実施主体は別所線電車存続期成同盟会であるが、実際に自転車利用を必要とする駅での鍵等管理を行ってもらえる方が必要不可欠。
サポート実施効果	貸し出し駅が 2 駅になってからも、年間 200 件以上の利用があり、別所線の利用促進に寄与している。なお、統計的なものは無いが、HP 等を見てレンタサイクルがあることで訪れる利用者も多い。
自治体の支援状況	自治体としての直接支援は無し。（修繕等維持管理に要する費用は同盟会負担だが、その基となる同盟会に対しての補助金は支出している。）
その他	特になし

サポート対象	N03 住民（町内会）によるイベント（その他）
サポート実施経緯	別所線及び沿線の魅力を広めるための定期的なイベントを検討したところ、観光コンベンション協会で認定した「ときめきレディ上田」が、市の行事等で活動を行っていたことから、別所線とモデル撮影をタイアップした写真撮影会を平成 15 年から行うこととなった。 撮影会の参加費には、別所線フリー切符代が組み込まれており、参加者は別所線を利用しながら、駅舎等で写真撮影を行うことにより、別所線利用促進を図っている。 また、鉄道愛好家、写真愛好家の参加者を多く募るために、撮影会では、プロカメラマンによる指導を行うほか、部門別の写真コンテストを行い、表彰も行っている。 なお、写真コンテスト入賞作品は別所線 PR のため、市の観光ポスター、別所線時刻表と組み合わせたチラシ等に活用している。
苦勞した点	主な撮影場所が駅舎、ホーム等で行われることから、参加者等の安全確保のためのスタッフが必要となるが、参加者数が増えるにつれ、参加者全員が一度に撮影を行うことが困難となり、モデルとスタッフの増員が必要となってきている。 また、別所線で移動し撮影を行うため、スケジュールが固定化してしまっている。
サポート継続ポイント	プロカメラマンによる指導を受けられること、写真コンテスト入賞作品がポスター等に使用されること、モデル撮影が可能であることが、鉄道愛好家、写真愛好家どちらの立場でも参加可能としたことがポイントと考えられる。
サポート実施効果	HP 等による事前告知と平成 15 年以降継続して行っていることにより、年々参加者数が増えているほか、市外はもとより、県外からの参加者も増えてきており、別所線の PR、利用促進が図られている。 参加者数 平成 15 年度 24 名、平成 16 年度 20 名、平成 17 年度 30 名、平成 18 年度 40 名、平成 19 年度 38 名、平成 20 年度 38 名、平成 21 年度 54 名 また、別所線電車存続期成同盟会予算では、写真コンテスト入賞者への表彰とトロフィー、記念品の贈呈のみしか行えなかったが、平成 21 年度はカメラメーカーから協賛の申し出があり、副賞提供も可能となった。
自治体の支援状況	市 HP、広報による情報提供、カメラマンへの謝礼、参加者休憩場所（市公共施設）の提供、市観光ポスターへの写真掲載等を行っている。
その他	特になし

サポート対象	N04 住民（町内会）によるパーク＆ライド
サポート実施経緯	平成 5 年頃から舞田駅周辺の整備を求める陳情が、自治会から市に対して行われていたが、駅周辺は個人の土地であるため、市では対応が出来なかった。 その後平成 15 年に、駅前土地所有者から別所線利用促進を目的として、土地（農業用地）の無償貸与の申し出があったことから、別所線電車存続期成同盟会会員と建設会社がボランティアで整備を行い、別所線利用者に対して無料で駐車場の提供を行っている。 平成 5 年頃 自治会から舞田駅周辺の整備を市に陳情 平成 15 年 舞田駅前の土地所有者から無償貸与の申し入れ 平成 17 年 5 月 当該土地の農振除外、農地転用手続き完了 平成 17 年 7 月 7 日間の整備作業を経て駐車場完成 平成 17 年 8 月 舞田駅パーク＆ライド駐車場完成式を行い、一般開放 (面積 330 ㎡、駐車可能台数 8 台)
苦勞した点	個人の所有する土地であるため、公費による整備ができず、別所線電車存続期成同盟会の会員である自治会役員等と地元建設会社のボランティアで整備を行ったこと。
サポート継続ポイント	別所線存続及び利用促進に賛同いただけた地権者がいたこと、駐車場整備をボランティアで行ってくれる住民と建設会社がいたことがポイントであると考えられる。
サポート実施効果	別所線を二次交通として利用する方を確保できたこと、駐車場整備により、雨天時等の別所線利用者の送迎が便利になった（以前は路上駐車が行われていた。）ことが挙げられる。
自治体の支援状況	当該土地の農振除外、農地転用手続き代行、駐車場整備に要する資材支給、当該土地所有者と市とで土地使用貸借契約を締結し、固定資産税減免を行っている。
その他	特になし

サポート事例	N05 ボランティア組織による清掃、維持管理
サポート実施経緯	別所線存続及び利用促進活動を行っている別所線の将来を考える会が制定した別所線の日(5月25日を記念日として日本記念日協会に登録)したことを機に、毎月25日近辺で駅舎の清掃活動を行うこととなった。
苦労した点	清掃範囲が駅舎、ホームとその周辺であることから、安全対策のため、上田電鉄職員の協力が不可欠であること。
サポート継続ポイント	記念日を定めたことにより、定期的に清掃活動を行う機運が高まったことがポイントであると考えている。
サポート実施効果	駅舎等の美化が図られた。
自治体の支援状況	清掃活動により集められた、ゴミ等の処分を無償で行っている。
その他	特になし

サポート対象	N06 民間団体による無料券の提供(その他)
サポート実施経緯	別所線、温泉、カラオケを組み合わせ、別所線利用促進を図ることを目的としてカラオケ大会を開催。別所線を様々な立場から支援する団体が集まった実行委員会で実施。大会では歌手を招いて歌謡ショーを行うほか、作曲家によるカラオケ審査、講評も行われ、例年300人ほどが参加している。 また、別所線利用促進事業の一環であるため、参加費用には別所線フリー切符代が組み込まれており、参加者に別所線を利用してもらえる仕組みになっている。
苦労した点	参加者数が多いため、会場の準備、確保を含め、スタッフ人数も多く必要となる。
サポート継続ポイント	別所線の利用促進が目的の事業であるため、スタッフはすべてボランティアであり、事業継続にスタッフが協力できていることがポイントと考える。
サポート実施効果	カラオケ大会は、参加者数も多く、別所線利用促進に寄与しているほか、平成20年、21年と歌謡ショーを行っていただいた、三代目コロムビア・ローズさんに上田市を題材とした新曲を歌っていただけることになり、別所線だけでなく、上田市のPRにも繋がった。
自治体の支援状況	市HP、広報による情報提供、市公共施設(温泉施設内ホール)の提供のほか、平成20年度は市の「わがまち魅力アップ応援事業支援金」、平成21年度は長野県の「地域発元気づくり支援金」が交付されている。
その他	特になし

18. 茅野市 (人口:57,231人)

サポート対象	N02 学校によるMM・ノーマイカーデー
サポート実施経緯	- 平成18年度に諏訪東京理科大学内で在学生を対象に実施した「学生満足度アンケート」において、「バスの本数が少ない」「運賃が高い（当時、片道300円、1ヶ月定期9,000円、現在も同額）」との意見が寄せられた。 - 意見を受けて、諏訪東京理科大学独自のスクールバスを運行することも検討したが、スクールバスでは既存の通学バス路線の過疎化につながることを懸念した。このため、既存のバス路線を活用させていただきとし、通学バス路線運営元の諏訪バス(株)と協議を行った。 - 平成19年度1年間、諏訪東京理科大学と諏訪バス(株)において協議を行い、以下のとおり締結した。 ○学生の運賃を大学が負担する。 ○諏訪東京理科大学発行の通学バスパスポートを乗務員に提示することで、無料で利用できる。 ○通学バスパスポートの利用区間は、最寄駅である JR 茅野駅から理科大（長倉入口）となり、この区間内であれば、どの停留所でも自由に乗降できる。 ○諏訪東京理科大学内において通学バスパスポート発行手数料を1,000円と定めた。 - 平成20年4月より、通学バスパスポート制度が実施された。
苦労した点	通学バスを利用する学生が増えたことにより、車内のマナーについて学内での掲示で注意を喚起したことがある。
サポート継続ポイント	本制度を導入し、間もないことから、現時点では答えられない。
サポート実施効果	【当初から見込んでいた範囲で得られた効果】 多くの学生が通学バスパスポートを取得し、通学バスを利用する学生が増加したことから、大学駐車場の使用許可申請が減少した。 【当初見込んでいなかった想定外で得られた効果】 電車から通学バスへの連絡が向上、通学バス路線の便数が増えたことにより、1時間目を遅刻する学生が減ったとの意見が教員より寄せられている。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

23. 佐久穂町 (人口:12,394人)

サポート対象	N02 ボランティア組織による清掃、維持管理
サポート実施経緯	- 平成19年の夏に世界初となる「ハイブリッド鉄道車両」がJR小海線に導入されたことをきっかけとして一部の地域住民が活動を開始する。 - この年、自然環境の保全及びJR八千穂駅周辺の景観作りを目指し、八千穂駅長の理解の基、八千穂小中学校の協力を得て生徒・児童と牛乳パックを利用したプランターに花を植え、駅ホームに設置する事業を実施。 - 平成20年度に長野県の「地域発 元気づくり支援金」を活用して、駅周辺の花植え・草刈・ゴミ拾い等の作業に加え、駅駐車場への観光看板や駅前花壇へのイルミネーションの設置を実施。 - 平成21年度も引き続き、駅周辺の花植え・草刈・ゴミ拾い等の作業を実施中。
苦労した点	駅周辺地区の有志により活動を実施しているが、地域の自治会を巻き込んでの取組となるよう努力しているが、地域住民の間でまだ温度差があり苦労しているようです。
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	特になし
自治体の支援状況	町：花苗の無料配布 県：「地域発 元気づくり支援金」 H20年度 支援金 600,000円
その他	地域の住民で結成されたボランティア団体による活動のため、詳細については不明です。

24. 立科町 (人口:7,893 人)

サポート対象	N01 商業施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	平成21年6月：運行前の地元説明会のなかで、高齢者の方より「買い物にいくときいつもは家族と一緒にだが、一人で買い物にも行きたいが、荷物もあるので、出来るだけ近くまで行ってほしい。」との要望があった。 その後、事務局でも検討し、地元のショッピングセンターである「ツルヤ」と「ファミリードラッグ」の正面入口にバス停を設置したいとお願いしたところ、承諾をいただく。 平成21年7月：法定協議会に諮ったところ承認。設置にいたる。
苦労した点	バス停の設置については快諾いただいたが、他のお客さんもいるので、駐車場内での交通事故、トラブル等について懸念されたため、バスの駐車場内の進行方向についてや、乗降位置について詳細に打合せをし、運転手にも徹底させている。
サポート継続ポイント	このバスについては町内を運行する「住民のバス」であり、その継続のため住民には、できるだけバスを利用してもらうようにしており、地元企業にも、地元のバスを守るため、また地域活性化のためにご協力いただけるようお願いをした。
サポート実施効果	両バス停ともある程度の利用者があり、バスの利用者の増加、また店の売り上げにも多少ではあるが貢献している。 また、「高齢者の自分で買い物をしたい。」というニーズに応えられており、高齢者の日常生活での交通手段として定着しつつある。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

サポート対象	N02 病院・福祉施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	平成21年6月：運行前の地元説明会のなかで、事務局案としては、商業施設と医院の間くらいにバス停設置を検討していたが、住民の方より「通院しているお年寄り、足が悪かったり、また買い物をしてから荷物を持って歩くのは大変である。」との意見があった。その後、事務局で検討し、運行時間は長くなるが、各施設の入口まで運行することは利用者の増加にもつながるのでは。」と「柳沢医院」「岩下医院」にお願いしたところ、承諾いただく。 平成21年7月：法定協議会に諮り承認。設置にいたる。
苦労した点	通院者の大半が高齢者ということもあり快く承諾していただいた。
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	今まで、家族や近所の方の送迎、タクシーで通院していた方が、一人でも通院できるようになった。利用者も増加しているが、課題としては帰りの時間が若干不便であり、今後時刻変更について検討が必要である。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

27. 阿南町 (人口:5,604 人)

サポート対象	N01 病院・福祉施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	阿南病院バス停着 7 : 0 8 (売木村方面から) 阿南病院バス停着 7 : 2 9 (和合地区から) のバス利用者に対して、病院ロビーを宿直者が対応して待ち合わせ場所として利用できるように開放している。 J R との接続やスクールバスとの共用で早い時間帯での通院になってしまう高齢者に利便を図っている。(阿南病院) 新野診療所と富草診療所は遠隔地区と診療所を結ぶ送迎バスを町民バスとして運行している。2 日の 1 回の運行を行っており、高齢者の通院を容易にしている。 診療所では、町民バスのダイヤに合わせての診療体制をとっている。 広範な地域に集落が散在しており、高齢者の通院へのサポートは以前から行われていたことであり、公共交通になってから始まったことではない。
苦労した点	少ない車両で効率よく運行するためのダイヤ設定。 町民バスについては、ダイヤ設定が細かいのでわかりづらい部分があり、当初は利用が伸びなかった。
サポート継続ポイント	撤退を表明した民営バス料金よりも大幅に安価にしたため、利用者は増加している。
サポート実施効果	特になし
自治体の支援状況	公共交通を維持するために自治体の一般財源支出は避けて通れない。(料金収入だけでは収支は合わない) 一般財源負担を増やすことなく横ばいの金額で支援を継続することをめざしている。
その他	特になし

30. 大桑村 (人口:4,253 人)

サポート対象	N01 個人による清掃、維持管理
サポート実施経緯	体調を崩されてから、車イスで外出をしている住民の方が、平成 1 5 年 4 月頃から、自宅近くの村内に設置されている大島停留所の清掃をボランティアで毎朝行っていていただいています。
苦労した点	特になし
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	停留所の利用者(児童)が、停留所を大切に利用するようになった。
自治体の支援状況	特になし
その他	平成 1 9 年度村表彰式で善行表彰者として表彰された。村広報誌への記載あり。(2 0 0 9 . 1 1 月号)

31. 木曽町 (人口:13,034 人)

サポート対象	N01 ボランティア組織による清掃、維持管理
サポート実施経緯	魅力ある地域とは地元の人々が生き生きと輝いている地域で、そういう地域には観光客などの来訪者も多い。人々が輝くためには、住民が地域を学び地域に自信と誇りを持って暮らしていくことが重要である。今回、子どもたちの取り組みを中心にふるさとを見つめ直すきっかけ作りを行い、これを通じて住民みんなで美しい村、活力あふれる地域を創っていこうというものである。 バス停美術館：間伐材で額縁を制作しバス停へ取り付け、開田小児童の絵画を展示（開田高原内16箇所のバス停留所に児童の絵画を額に入れて展示） 平成21年6月下旬 額縁製作依頼。（16） ” 開田小学校へ絵画制作依頼（児童84人） 8月下旬 バス停へ額縁取り付け。絵画作品を展示。（16箇所）
苦勞した点	各バス停の把握をするのに苦勞した。
サポート継続ポイント	学校関係者との連携が大事であると感じた。
サポート実施効果	高原内にある16箇所のバス停留所に開田小1年生児童の絵画「自分の顔」を展示したことから、バス利用のお年寄りや観光客などから「雰囲気明るくなった」と声をいただいた。
自治体の支援状況	県へ補助金申請をする上での事務支援。
その他	バス停美術館に展示する絵画について、現在は小学1年生の作品を展示しているが今後は他の学年や中学生、高校生、社会人まで枠を広げるとともに、絵画だけではなく写真や書なども含めて検討していきたい。

36. 富山市 (人口:419,849 人)

サポート対象	N02 住民（町内会）による清掃、維持管理、乗車券販売、その他
サポート実施経緯	婦中鵜坂駅開業の平成 20 年 3 月より設立。
苦勞した点	特になし
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	特になし
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

サポート対象	N06 ボランティア組織による案内マップ
サポート実施経緯	坂のまちアート実行委員会では、来場者向けの駐車場として“町民ひろば”を指定している。実行委員会では当初、“町民ひろば”から町内の会場へ向けてシャトルバスを運行していたが、回を重ねるうちに、一方で八尾まちなめぐりバスの運行が年間を通じて始まった。当該バスは、通常便としてその“町民ひろば停留所”を経由して会場の町内に向けて運行している。実行委員会では来場者の便宜をはかることと、イベント運営資金の効率化を図ることを目的にシャトルバスの運行を取りやめ、当該バスの利用を呼びかけている。
苦勞した点	特になし
サポート継続ポイント	イベント会場のエリアと八尾まちなめぐりバスのルートや運行時間が合致していること。
サポート実施効果	会場を回遊するための利便性が向上した。
自治体の支援状況	坂のまちアート実行委員会に対し、そのイベント用に補助金を支出している。
その他	特になし

37. 高岡市 (人口:177,012 人)

サポート対象	N01, 2 商店街による買い物で無料券
サポート実施経緯	平成 12 年 11～12 月：コミュニティバスの試験運行時の利用の魅力付けとして、サービスを試験的に実施（コミュニティバスのみを対象）。 平成 13 年 10 月：コミュニティバスの本格運行開始に合わせて、路線バス、万葉線での利用範囲を拡大しサービスを開始。
苦勞した点	（開始当時の状況は不明）現在は特になし。
サポート継続ポイント	中心商店街の活性化策として、まちづくり会社、商店街組合が積極的に活動をしているため。
サポート実施効果	現在のサービス加盟店は 180 店舗。共通乗車券（100 円券 11 枚綴り）を商店街組合や、各商店に販売している末広開発（株）高岡町衆サロンでは、18 年度 2,693 冊、19 年度 2,998 冊、20 年度 2,609 冊の販売実績があり、中心商店街へ公共交通を利用したの来訪に、一定の効果をあげている。
自治体の支援状況	バス、電車内に備え付ける共通乗車券引替券（オレンジ色の券：下記 URL 参照） http://www.city.takaoka.toyama.jp/sekatsu/0601/komiti/komiti.html を、高岡市公共交通利用促進協議会の予算で毎年印刷（4 万枚）をして、配布をしている。
その他	商工会議所ニュースでの紹介 http://www.jcci.or.jp/nissho/publication/2001111405.html 当初は TMO を商工会議所で実施していた。現在は末広開発（株）が引き継いで、まちづくり会社として活動をしている。

38. 魚津市 (人口:45,354 人)

サポート対象	N01 住民（町内会）による清掃、維持管理
サポート実施経緯	平成 21 年度当初、老朽化が目立つ地鉄経田駅を住民の手で何とかしなければとの気運が巻き起った。秋頃から、経田地域振興会・市役所経田地区ワーキンググループ職員が中心となり、今年度は老朽化した駅のプラットフォームの改修を地域住民の手で行い、駅を気持ちよく利用してもらうとともに、地域に活気をもたらすことを目的として事業に取り組んだ。
苦勞した点	天候に左右される作業のため、長い期間の取組みとなった。
サポート継続ポイント	地域住民だけでなく、地元にある高校の生徒をはじめ、各種団体等の理解・協力もいただき、地域全体で取り組む体制づくりが大切
サポート実施効果	様々な方々から「経田駅は綺麗になった」と喜んでいただき、利用者にも気持ちよくご利用いただいている。今後、利用者増につながれば、なおありがたい。
自治体の支援状況	ペンキ等原材料費のみであるが、地域振興会に助成を行なった。
その他	特になし

サポート対象	N02 住民（町内会）・商店街による清掃、維持管理
サポート実施経緯	夜間無人駅となる電鉄魚津駅では駅舎もかなり老朽化していることや乗降者が減少していることから利用者（特に学生や女性）が安心して利用しにくい状況であったため、地域住民で組織した防犯組合が定期的（毎月 20 日）に巡回を実施することとなった。（大町地区防犯組合「しんきろうパトロール隊」）
苦勞した点	地域での協力体制の確立 パトロール車の維持管理費の捻出
サポート継続ポイント	地域の結束。
サポート実施効果	利用者から安心して利用できる感謝されている。
自治体の支援状況	支援なし
その他	パトロール車の整備にあたっては、宝くじ助成を利用。

サポート対象	N03 商業施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	平成 15 年より、魚津ショッピングスクエア・サンプラザが、駐車場の一角をバス停や待合所として提供している。 以前は、サンプラザより遠い場所にバス停が設置されていたが、サンプラザを利用されるお客様からの要望、サンプラザの集客につなげたいという思い、市民バス運営者である市のバス利用者増を図りたいという思いが合致し、設置に至った。
苦勞した点	特になし
サポート継続ポイント	サンプラザの協力が成功の秘訣。 下記の費用を全てサンプラザが負担している。 ・バスが構内に入れるよう間口を広げ、またバスが通りやすいようスロープも設けた。 ・バス停の近くの出入り口にベンチ付きの待合室を設け、観光ポスターを貼るなど、観光PRにも努めている。 ・バスがスムーズに運行できるよう、交通整理員をバス停近くに配置している。 ・バス内の有料液晶広告にも広告を出し、利用者増に努めている。
サポート実施効果	利用者からは、安心して気軽にバスを利用してショッピングを楽しめるとの嬉しい声をお聞きしており、サンプラザからも、集客につながっていると聞いている。 また、バスの利用者増にもつながった。
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

サポート対象	N04 住民（町内会）、魚津市民バスの運行を委託している NPO 法人による乗車券販売
サポート実施経緯	魚津市民バス郊外地域ルートは、受益対象地域を中心に組織いただいた NPO 法人に運行委託費の 1/3 の運賃収入確保を条件に運行委託をしている。こうしたことから、各地区の NPO 法人は、運賃収入等を確保するため、住民への回数券購入等の協力依頼を行っているところがある。
苦勞した点	NPO 法人の設立、運行経路や時刻表の設定を各 NPO 法人の意見を尊重しているので、全市的に見て効率的な運行経路となっていない点。
サポート継続ポイント	地域との協働。
サポート実施効果	バスの利用促進等。
自治体の支援状況	運行経費の 2/3 及び各 NPO の指導・育成、車両等、PR 活動等
その他	特になし

サポート対象	N05① 商店街・その他実行委員会によるイベント（その他）
サポート実施経緯	平成 3 年、市民の有志が、市の玄関口である魚津駅を利用される方々を温かく迎えたいという立ち上がり、イルミネーションの点灯をスタートした。今年で 19 回目。 駅ロータリー中央には、魚津市の伝統行事「たてもん祭り」の「たてもん」という山車を模った「たてもんオブジェ」を設置しており、提灯への絵付けはこれまでに市内の市・中・高校に協力を貰っている。
苦勞した点	点灯期間が長いことから、提灯やイルミネーションの劣化が激しい。まだ全ての電球を発光ダイオードに転換できていない。
サポート継続ポイント	市内企業や魚津駅周辺の住民の方々の協力と魚津駅を理解を十分に得ていること。 また、イルミネーションという近代アートと伝統芸能との融合していること。 また、平成 20 年度の富山ー魚津間 100 周年の際には、点灯時期を早めたり、市内小・中・高校生にイルミネーションオブジェの作製をしてもらうなど、市全体で盛り上げているところ。
サポート実施効果	魚津駅周辺が明るいことによって、防犯の役割になっている。 また、近年は提灯の絵付けなどに学生の協力を得ていることから、駅への関心や利用に貢献している。
自治体の支援状況	毎年、魚津市より実行委員会に補助金を交付している。
その他	特になし

サポート対象	N05② 商店街・その他実行委員会によるイベント（その他）
サポート実施経緯	電鉄魚津駅がある新宿商店街が、かねてより駅存続を熱望しており、JR 魚津駅同様に駅周辺を明るく照らして商店街とともに賑わい創出をしたいという想いから、平成 21 年 12 月に実現。
苦勞した点	お金の無い中でのスタートだったため、各商店や魚津市商店街連盟から協賛金を頂くなど、お金の工面に苦勞した。
継続ポイント	今回初めて実施したため、来年度以降も継続できるようにしたい。
サポート実施効果	商店街の賑わい創出の一躍を担っている。 また、近くには小・中学校があるので、生徒の下校時の防犯に役立っている。
自治体の支援状況	富山県から 1/3 の補助あり
その他	特になし

40. 黒部市 (人口:42,262 人)

サポート対象	N01 黒部まちづくり協議会による乗車券販売
サポート実施経緯	新幹線開業に向けたまちづくりや市町村合併による一体感の醸成を目的として、NPO 法人黒部まちづくり協議会が平成 19 年 3 月より取組んでいる。 H18. 9 事業実施に向けて関係者で協議開始 H18. 12 フリーきっぷの価格を 500 円で調整開始、黒部まちづくり協議会運営委員会にて最終確認
苦労した点	フリーきっぷの利用促進 当初、全く鉄道を利用しない沿線住民が多く、電車への乗車方法（後ろ乗、前降り）に戸惑う市民もいた。自動車移動がほとんどである、当地域において、フリーきっぷの販売思うように伸びなかった。
サポート継続ポイント	「くろワン実行委員会」を組織し、コアメンバー（実行力のあるメンバー）を中心として、運営にあたっている。
サポート実施効果	きっぷ売上は、採算ラインを上回っており、当初の目標を達成した。さらに、沿線地区の若栗、下立においては、観光マップを作成する取り組みが行われるほか、浦山駅では地域住民による駅舎修繕が実施され、マイレール意識が醸成されつつある。
自治体の支援状況	補助金は支出していないが、広報（市報、ケーブル TV）の協力をしている。
その他	特になし

41. 射水市 (人口:94,331 人)

サポート対象	N01, 2, 3 住民（町内会）による清掃、維持管理
サポート実施経緯	市民協同推進の一環として、平成 21 年度当初から市内各地区地域振興会に委託することにより実施となった。
苦労した点	市より地元地域振興会に理解を求めたこと。
サポート継続ポイント	地域住民の市民協同事業推進に関する理解
サポート実施効果	地域住民の市民協同事業への参加意識の高揚
自治体の支援状況	委託料の交付
その他	特になし

サポート対象	N04 住民（町内会）による清掃、維持管理
サポート実施経緯	これまで道路復員が狭隘なことから、通行自動車のバス停支柱への接触事故が数回あったことから、バス停前個人の方から善意で協力の申し出があった。
苦労した点	同地点に、民間路線バス停の支柱がもう 1 基あり、事業者の意向によりその撤去が困難であること。但し、個人の協力によりそのバス停支柱を個人敷地内に移動している。
サポート継続ポイント	特になし
サポート実施効果	特になし
自治体の支援状況	支援なし
その他	特になし

42. 金沢市 (人口:455,984人)

サポート対象	N02 商店街・商業施設による買い物で無料券
サポート実施経緯	・北陸鉄道(株)と香林坊地区及び武蔵地区の商店街等は、公共交通の利用促進による環境負荷の軽減や環境問題に対する意識の向上を図る観点から、ICa(ICカード乗車券)を活用して、①バスに乗車するするとポイントがたまる乗車ポイントシステム、②商店街等で買い物をするとポイントがたまる商店街ポイントシステムを導入することとした。 ・エコポイントシステムについては、金沢都市圏におけるITを活用した総合的な交通システムに関する検討委員会「ICカード検討ワーキンググループ」(計7回開催)にて検討を行った。
苦労した点	・交通事業者と商店街等の調整。 ・ICカード端末が高額であり、現時点では紙券によるシステム運用しかできないため、大幅な利用者の増加が期待できない。
サポート継続ポイント	・公共交通の利用者等のニーズを踏まえ、より使いやすいシステムへの改善を図っていくことが重要であると考えている。
サポート実施効果	・まちなか(商店街等)へバスを利用した買い物客が増加。(数値データなし)
自治体の支援状況	・キャンペーン等の利用促進広報を実施
その他	特になし

43. 珠洲市 (人口:16,488人)

サポート対象	N01, 2, 3, 4 住民(町内会)・学校・その他による清掃、維持管理
サポート実施経緯	平成20年5月 平成20年度地方の元気再生事業の提案申請がきっかけ 平成20年8月 珠洲市地域公共交通活性化協議会で事業内容を承認 平成20年10月 市広報誌により活動団体を募集 平成20年12月 協議会とサポート団体の間で協定書を締結 平成20年12月～21年3月 待合所の完成、ベンチの設置完了など 平成21年4月～ 市独自の「珠洲市バス・ボランティア・サポート活動費補助金交付要綱」を制定
苦労した点	特になし
サポート継続ポイント	市の広報誌にて活動団体を募集し、参加の申し出があった団体と協定書を結んだうえでの事業実施であり、団体自らが考え、行動を起こしている点がポイントとなる。行政の押し付けでは団体は育たない。団体自らが自らの発想で地域のバスを守り育てるという意識醸成ができなければ、継続しない。
サポート実施効果	本市は過疎地であるため、当初から乗降客数の増加を過度に想定しているものではなく、公共交通維持のためにはバス停の清掃活動等のように普段から、地域が公共交通に目を向けること、関心を持つことが重要であるとの認識のもと実施している。サポート団体が結成されていることは、バスに関心を持っていた方が増えているものであり、市内全域に広がっていくことを望んでいる。
自治体の支援状況	内閣府の平成20年度地方の元気再生事業により実施したものであり、待合所設置にかかる材料代や掃除用具の購入のみを支援している。(人件費や備品代に支給しているものではない。)
その他	平成20年度の結果を受け、平成21年4月1日からは市独自で「珠洲市バス・ボランティア・サポート活動費補助金交付要綱」を制定し、バス待合所の修繕や待合所の周辺整備(プランターの設置など)に対し、補助金を交付することとしている。

44. 加賀市 (人口:72,894 人)

サポート対象	N01 住民（町内会）・商業施設によるバス停等敷地提供と乗車券販売
サポート実施経緯	平成 19 年 5 月 隣接した勅使、東谷口地区のバス路線廃止計画が明らかになる。 平成 19 年 8 月 公共交通の現状と今後について住民、バス事業者、市で意見交換 平成 19 年 10 月 市から両地区区長会に対してバスの代替として乗合タクシーを提案 平成 19 年 11 月 両地区区長会と市が協力し、乗合タクシーの検討を開始 平成 20 年 3 月 勅使及び東谷口地区それぞれで実験運行を開始。実施形態は、市が地区毎に実験運行業務として委託し、それぞれの地区はタクシー会社に運行を委託するものとした。 平成 20 年 6 月 市の実験運行業務を終了し、住民主体の運行へと移行した。この際、隣接した両地区は別々に運行していたものを共同の運行として一体化し、「勅使・東谷口乗合タクシー運行協議会」を発足した。 以後、2 月ごとに定例会を開催しながら、利用促進等の取組みを実施し、現在に至っている。
苦労した点	19 年 5～8 月 バス路線廃止による地区の過疎化やイメージダウン、高齢者等の日常生活への悪影響等を理由に反対意見が大半を占めた。 19 年 10 月 乗合タクシーに対してはまだ半信半疑であったが、一方で、「なくなったバスが復活することはありえない。自分達でやるしかない。」という意識が地区区長会の中で芽生えてきた。 19 年 11 月 各地区区長会は、乗合タクシーを検討する方向で決定 第一の課題：運行赤字は誰が（市又は区長会）負担していくのか。 ⇒当初は市が費用負担する実験運行として行い、その結果を基に赤字の少ない運行内容に改善した上で、市の負担金を受けながら区長会として負担可能な範囲で行うことで合意した。 20 年 2 月 各地区の町ごとに高齢者等を集めて説明会を実施。周知は、町内回覧板のほか、利用が見込まれる住民に区長が個別に声をかけるなどした。 20 年 3 月 運賃支払いは回数券方式であるため、その販売を各区長、区長事務所、商店等が協力して取り扱うこととした。
サポート継続ポイント	・住民が「自分達で作り、守り、育てる公共交通」の意識を持って真剣に取り組んだこと。 ・需要調査をアンケートに止まらずに、区長会が高齢者等から聞き取りを行い確かなデータを得たこと。
サポート実施効果	・廃止前のバス路線から離れた場所の住民にも好評で、利用が多くされている。 ・家族による高齢者の通院送迎等の負担が減り、高齢者側からは家族への遠慮が解消されたこと。 ・高齢者が両親不在の休日や夏休みに孫を連れて外出する機会が生まれた。 ・両地区の区長会の交流が深まった。 ・乗合タクシー車内が、井戸端会議的な住民交流の場となった。 ・賛助会員として、地区内の団体や個人からの応援が生まれた。 ・運行を受託しているタクシー会社からも運行協議会の会議等への参加がある。
自治体の支援状況	・市から運行協議会に対して運行赤字の一部を負担金として支出している。 （現在の赤字負担ルール：国 1/2（公共交通活性化再生総合事業）、市 1/4、運行協議会 1/4） ・運行委託費に対する運賃収入の割合が 60%を超えた場合、増便等の充実を目的とした支援金として、運賃収入額の 10～15%を市から運行協議会に交付している。
その他	特になし

46. 内灘町 (人口:26,701人)

サポート対象	N01 病院・福祉施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	病院内敷地にバス停を設置。 平成19年7月に庁内WGで運行ルート案について検討。既存バス路線も敷地内にバス停を設置していたため、コミュニティバスバス停についても設置をお願いした。 平成19年10月、町交通会議において運行ルートの決定併せてバス停位置が正式に決定。(交通会議委員として事業者代表がいる)
苦労した点	同じ敷地内であるが、既存の路線バスとコミュニティバスのバス停が違う場所に設置されている。 事業者から既存のバス停はバス以外にも病院バス、タクシー等が混在し、非常に混み合い危険であることから、違う場所にしてほしいと要望があった。また路線バス事業者もコミュニティバスとの競合を避けるため、路線バスバス停と違う場所にしてほしいとの要望があった。
サポート継続ポイント	利用者から見ると同じ場所のほうが使いやすいが、コミュニティバスだけでなく、路線バスとの共存も考えなければならない。
サポート実施効果	路線バス利用客とコミュニティバス利用客の棲み分けが出来ている。
自治体の支援状況	町と大学病院と協力関係を築いている。
その他	特になし

サポート対象	N02 商業施設によるバス停等敷地提供
サポート実施経緯	商業施設内敷地にバス停を設置。 平成19年7月にWGで運行ルート案について検討。 その後、開発事業者に打診し、承諾を得る。(コンフォモール内灘は内灘町が誘致していたため、事業者がバス停ゾーンを整備した。11月開業) 平成19年10月、町交通会議において運行ルートの決定併せてバス停位置が正式に決定。
苦労した点	商業施設の開業前にバス停が決定したため、バス運行ルートについて事業者へ説明したところ、バス停ゾーンの整備も事業者が整備した。
サポート継続ポイント	商業施設の開発誘致は町が行っていたため、事業者の協力が得られやすかった。
サポート実施効果	商業施設内にバス停があることで、利用客が心地よくバスを待つことができ、利用者も多い。
自治体の支援状況	特になし
その他	特になし

48. 能登町 (人口:20,078 人)

サポート対象	N01 住民（町内会）による清掃、維持管理
サポート実施経緯	能登町内の公共交通は、平成 17 年 3 月末を以って「のと鉄道能登線」が廃線となり、鉄道からバスへと移管された。バス運行に伴い、利便性の向上を図るため数箇所のバス待合所の設置を計画し、町が事業主体となり実施したが、設置後の維持・管理は地元町内会が行う旨の誓約を取り交わした。これがきっかけとなり、以降、バス待合所設置(主に地元民が利用するための待合所)の要望などが出された場合には、建設に係る実施主体並びに設置後の維持・管理についても地元町会が行うことを条件に補助事業の交付決定を行っている。(建設補助：上限 30 万円) 平成 17 年 3 月：「のと鉄道能登線」が廃線 平成 17 年 4 月：のと鉄道転換バス運行開始 平成 18 年 4 月：能登町バス待合所整備事業費補助金交付要綱施行 ：バス待合所維持・管理サポート体制のスタート
苦労した点	日々の維持・管理は概ね地元町会で行われているが、日常の維持・管理に伴わない施設の破損などが発生した場合の修繕については行政がやらざるを得ない点
サポート継続ポイント	事業主体が地元町会なので、行政任せにならない。 今後は、単なる待合所の設置だけではなく、同時にバスの利用促進を含めた啓発活動が必要であると思う。
サポート実施効果	自ら(町会)が建設した待合所なので年間を通して適切に管理されている。 待合所内へのベンチや座布団などの提供があったほか、待合所周辺に花を植栽するなど地域一体となった取り組みが見受けられる。
自治体の支援状況	能登町バス待合所整備事業費補助金 ・ 地元町会等が実施する、新設バス待合所の建設に 30 万円を限度に助成
その他	特になし

